

14.24
20

新潟県水産試験場
事業概要 大正13-14年度
国立国会図書館



始



47D37

14
20

新潟縣水產試驗場事業概要

大正十三年度

1424-20

凡 例

一、此ノ報告書ハ簡易ニ要領ヲ示スヲ旨トセリ、猶委細ヲ知ラレタキトキハ本場へ問合ハセラレタシ

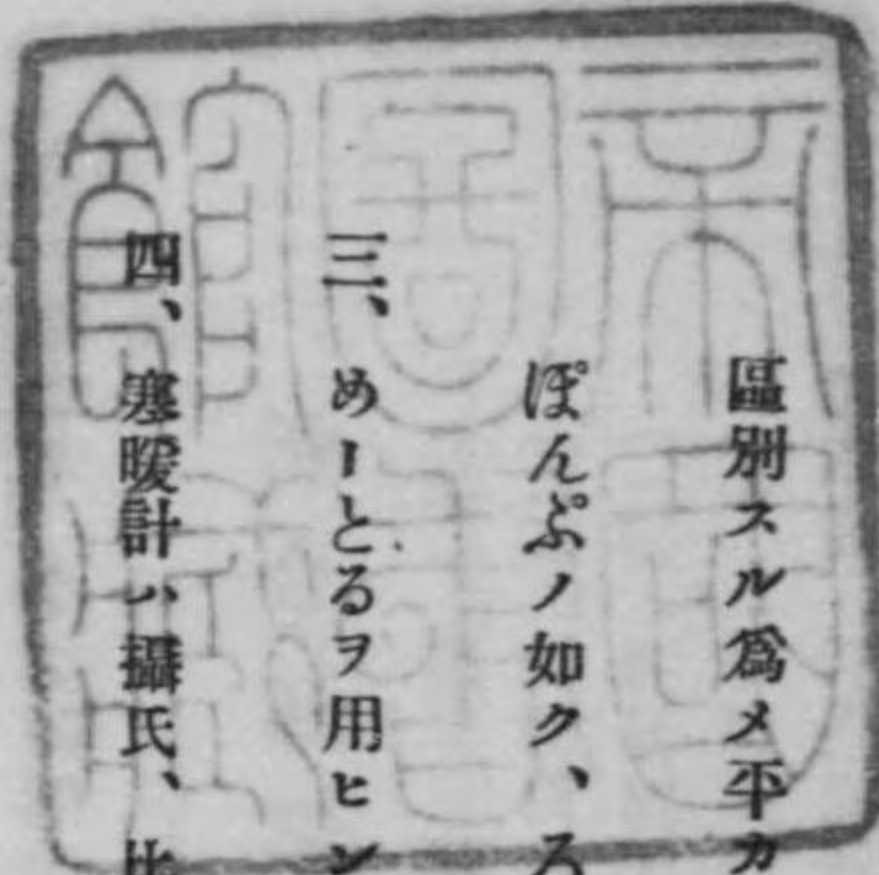
二、此ノ報告書ニハ西洋文字ヲ用フルコトヲ止メタリ、洋語ノ方却テワカリ易キモノハ之ヲ用ヒテ其ノ洋語ナルコトヲ

區別スル爲メ平カナヲ用ヒタリ

ぼんぶノ如ク、乃ららノ如シ

三、めりとするヲ用ヒントセシモサテ自分ナガラ六ケシク結局尺貫升ニテ記セリ

四、寒暖計ハ攝氏、比重計ハ赤沼式ヲ用ヒタリ



目次

挨拶

一、遠洋漁業

- 第一節 北辰丸往航
- 第二節 遭難顛末
- 第三節 船体破損箇所
- 第四節 浮揚回航
 - (一) 救助契約書
 - (二) 經過概要
 - (三) 救助貨物
 - (四) 修繕

二、沖合漁業

- 第一章 沖合漁場調査
- 第二章 小型機船漁業經濟試驗

三、沿岸漁業

- 第一章 定置漁具材料試驗
- 第二章 漁獲物運搬試驗

四、製造

- 第一章 鱈利用試驗
- 第二章 鱈粉製試驗

- 第三章 鱈罐詰製造試驗
- 第四章 鱈詰大量製造試驗
- 第五章 鱈詰製造講習

五、養殖

- 第一章 鮭人工孵化事業
- 第二章 鮎人工孵化事業
- 第三章 白鰻移殖試驗
- 第四章 淡水養殖試驗場並月岡鯉兒養成所報告
 - 第一節 鯉兒養成配付
 - 第二節 淡水養殖場ノ部
 - 第三節 月岡鯉兒養成所ノ部
 - 第四節 養魚經濟試驗
 - 第五節 親鯉配付
 - 第六節 鮎ノ養殖
 - 第七節 公魚池中養成試驗
 - 第八節 ぶるふろつぐ養殖試驗
 - 第九節 鮠養殖試驗
 - 第十節 蛤移殖試驗
 - 第十一章 牡蠣養殖試驗
 - 第十二章 牡蠣移殖
 - 第十三節 牡蠣附着試驗
 - 第十四章 北寄貝移殖

六、調査

一 三 三 四 四 四 六 六 七 七 七 〇 〇 一 一 二

一三 一四 一四 一五 一五 一六 一七 一七 一七 一七 一八 一九 二一 二一 二二 二三 二四 二六 二七 二七 二八 三〇 三一



第一章 海洋觀測	三一
第二章 海流調査	三二
第三章 漁況通信	三四
第一節 大羽鱈漁況	三四
第二節 佐渡ニ於ケル鱈及ニ番柔魚漁況	三六
第四章 加茂湖調査	三七
第五章 氣象觀測	三八
七、指導講習講話	三八
第一章 小學教員水産講習	三八
第二章 漁村講話	三八
第三章 養殖講習講話	三八
第四章 海圖講習	三九
第五章 指導	三九
八、大正十三年度經費豫算	四〇
九、職員	四一

昨日五月北辰丸、幌廷島ニ於テ遭難ノ際ハ各位ノ同情ヲ辱クシ、態々來訪セラレ又ハ電信、書狀ヲ寄セラレ以テ厚ク慰問セラレタルハ深ク感謝ニ堪ヘズ

特ニ日本漁業會社幌廷事業場及大湊要港部ノ救護ニ對スル多大ノ盡力ヲ下サレタル其他日露漁業會社函館出張所、明治漁業會社風山丸、農商務省得撫丸ヲ煩シタル是亦厚ク感謝スル所ナリ赤十字社本縣支部、愛國婦人會本縣支部ヨリ手厚キ慰問ヲモ辱クセリ。

尙殉難者ノ爲ニ廣ク義捐ヲ募ラムコトヲ佐藤内務部長、伊津野水産學校長、村山水産會副會長、井出露領水産組合支部長、笹村新潟鐵工所取締役、新潟、新潟毎日、新潟時事、新潟朝日、北越、越佐ノ六新聞社發起セラレタルニ實ニ千六百五十九者ヨリ貳千九百九拾八圓參拾壹錢(内百圓ハ締切後ニ付退配セリ)ヲ寄セラレ之ニ利子ヲ加ヘ左記遺族ニ等分贈呈セラレタリ

挨拶

場長新宅定一

向 職 者	住 所	氏 名
船長 國府 孝作	東京市赤坂區丹後町三三	(妻) 國府 しげ
電信手 福士 三郎	青森縣弘前市條森町	(父) 福士 吉太郎
製造助手 酒井榮二	富山縣中新川郡下條村	(兄) 酒井 重造
油卷 結城 久作	新潟市本町通十一番町	(妻) 結城 むめ
油卷 山田真三郎	京都市上京區姉小路	(父) 金子 爲吉
火夫 大塚 鶴平	静岡縣周智郡三倉村	(父) 大塚 兼吉

大 夫 土田彌太郎 本縣四頭城郡能生町
給 仕 平澤清之丈 本縣三島郡寺泊町
練習生 大 瀧 清 本縣岩手郡大川谷村

義捐金ヲ寄セラレタル方ノ芳名

富山縣 水産會、中新川、下新川各郡水産會、水産講習所職員一同、露領水産組合支部、魚津町島崎長作、滑川町平井茂右衛門、新湊町柴保二、柴正三、林宇三、多賀傳次郎、放生津漁業組合、富山灣大敷漁業、越中水産、新湊漁業各會社

大阪府 南區本町某(自ラ匿名セラル)

鳥取縣 水産試驗場内伊藤朗、浦津幣太郎、松尾千壽、加藤延彦

岡山縣 上道郡水産會、茂平、生江濱、西濱、笠岡、入江新田、横島、神島門浦、神島外浦、白石、北木島、眞鍋島各漁業組合

山口縣 玖珂郡豊浦郡各水産會、麻里布漁業組合

和歌山縣 古座、宇久井各漁業組合

德島縣 伊座利、阿部、志和岐、東由岐、西由岐、木岐、日和佐、牟岐東、牟岐西、出羽島、淺川、稱、安喰各漁業組合

佐賀縣 水産會

沖繩縣 水産會内岩本賀昌、小嶺信雄、田崎朝淳、金城榮保一、速天英保、羽地朝治、與那嶺秀一、嘉手苺林立喜舍場信演、富永寛榮、山里太郎、上原清松、伊志嶺玄良、吳屋秀、漁業組合聯合内照屋林顯、安里積

動、古波藏榮吉、伊天源吉、南風原健吉、水産學校
 内粟屋協二、赤嶺慎一、吉田定次郎、池田文爾、永
 井正、井上耐、水産試験場内佐々木武治、東平光、
 野中一郎、仲村渠政徳、國吉俊一、漁徳九代表者系
 満幸之亟
 東京市 神田美土代町中野庄一郎、市外代々木山谷宮内喜市
 千葉縣 水産學校水産試験場職員一同
 茨城縣 水産會
 宮城縣 水産試験場職員一同
 北海道 小樽北海製罐倉庫會社、三菱鑛業會社賣炭所、膽振
 白老村石川源次郎、平間丑藏、上山仙吉、新川福太
 郎、中野善太郎
 秋田縣 水産會、濱口、大久保、南磯、北浦各漁業組合
 新潟縣 略ス
 茲ニ小職ハ遺族ト共ニ重テ芳志ヲ永ニ深ク感謝スルモノナリ

一、遠洋漁業

北辰丸出航、遭難

第一節 往 航

前年度ヨリノ繼續事業タル工船蟹漁業試験ノ爲四月二十三日
 新潟港ヲ出帆セリ。漁具其他ノ準備ハ略前年度ニ同ジキモ只
 新ニもたらひたりト造リ漁獲能率ノ増進ヲ圖ルコト、セリ
 同月二十五日小樽ニ入港シ石炭、鐵等ヲ積込ミ同二十七日同
 港ヲ拔錨シ宗谷海峡ヨリおこつく海ニ入ル。二十九日朝中知
 床岬ヲ去ル東百哩ニ於テ流水ニ遭ヒ前進ヲ阻止セラレシモ微
 速力ヲ以テ縫航シ何レカニ血路ヲ需メムト努メシモ同日正午
 前途ハ一帶ノ氷原トナリシカバ直チニ引返ス、時ニ一面ノ濃
 霧襲來シ同地點ニ假泊スルノ已ムナキニ至レリ。翌三十日霧
 ノ霽ル、待チ早朝ヨリ航走ヲ繼續セシガ遂ニ氷原圈内ヲ脱出
 スルコト能ハズ、五月一日辛ウジテ脱出スルコトヲ得タリ。
 然ルニ近海郵船會社高松丸ニ托送セシ石炭及空罐積取ノ爲メ
 幌筵島村上灣ニ於テ同船ト落合フ關係上融解期ヲ待ツノ餘日
 ナク直ニ津輕海峡ヲ迂廻シ千島東岸ニ沿ヒ村上灣ニ急航シ五
 月九日午前八時無事到着セリ

第二節 遭難顛末

本船ハ勘察加西海出漁ノ途次前記ノ如ク五月九日午前八時村
 上灣ニ寄港水深六尋底質砂ノ處ニ双錨泊中午後八時三十分頃
 ヨリ氣壓漸次下降シ東南東風ニ雪ヲ交ヘ荒天模様トナリシヲ

以テ之ニ對スル諸般ノ用意ヲ爲シ且萬一ヲ慮リ不眠當直中十
 日午前一時頃ヨリ風雪次第ニツノリ來リタルニ付錨鎖ヲ一杯
 ニ延シタルニ同午前六時頃ヨリ氣壓急降シ天候一層險惡トナ
 ル依テ同六時三十分機關用意ヲ爲シ錨鎖ノ緊張ヲ減ゼン爲メ
 同七時ヨリ前進微力ヲ掛ケテ、碇泊中猶風浪一層猛烈トナリ
 タルニ付同七時三十分全速力ヲ以テ汽機ヲ運轉シ居タルモ高
 浪ノ爲メ操舵意ノ如クナラズ同七時五十分走錨シ始メタルニ
 依リ危險ナリト認メ沖合ニ漂着ノ目的ヲ以テ錨鎖ヲ巻揚ゲム
 トセシガ重クシテ揚錨機回轉セズ、刻々トシテ走錨甚シク、
 警笛ヲ鳴シ救助信號ヲ掲ゲ救助ヲ需メツ、アル内激浪機關室
 内ニ侵入シ遂ニ機關運轉ヲ停止スルノ已ムナキニ至レリ。錨
 力ニ堪ヘズシテ船体ハ遂ニ距岸六十間水深十呎底質砂ノ所ニ
 打揚グラレ、激浪ハ間斷ナク船ヲ襲ヒ各船室ハ滿水シ、端艇
 ハ全ク破壊流失シ船員退去ニ困難ヲ生ジ、止ヲ得ズ全員船橋
 上ニ集リ寒氣ト闘ヒツ、救助ヲ待ツ内左ノ如ク船長以下九名
 遂ニ凍死セリ

- 船長 國府 孝作 明治十二年十月十日生
- 電信手 福士 三郎 明治三十一年十二月十四日生
- 製造助手 酒井榮二 明治三十六年一月八日生
- 油差 結城 久作 明治七年八月三十一日生
- 同 山田良三郎 明治三十年十月十三日生
- 火夫 大塚 協平 明治二十九年九月二十八日生
- 同 土田彌太郎 明治四十年九月二十四日生
- 給仕 平澤清之丈 明治四十二年五月三日生
- 練習生 大瀧 清 明治四十年十月三十日生

翌十二日隣港柏原灣ニ碇泊中ノ驅逐艦時津風、濱風ノらんち
來リシヲ以テ直ニ遭難ノ旨本縣並本場ニ電信ヲ委嘱シ旭技
手ハ十三日早朝船員八名ヲ連レ高松丸ニテ歸途ニ就ケリ。其
他ノ乗組員ハ遺骨ヲ携ヘ十九日驅逐艦濱風ニ便乗ヲ許サレ歸
縣スル迄日本漁業會社及濱泊驅逐艦ヨリ多大ノ便宜ヲ供與セ
ラレタリ

此ノ間日本漁業會社漁舍ニ在テ寢具不足ニシテ寒サニ眠レズ
此ノ旨本場へ電報シ、本場ハ日魯漁業會社函館出張所ニ依頼
シ毛布ヲ買入レ折柄出帆ノ明治漁業會社風山丸ニ托送シタル
ニ豫定ニ先ヅテ船員歸リタル故行違トナリタリ

本縣ハ十三日日本船遭難ノコトヲ大湊要港部ヨリ電報セラル、
ヤ即日佐藤技師、新宅場長、前田主事補ヲ急派シテ同部ト救
助手配ヲ打合セシメラレタリ

二十六日新潟市超願寺ニ於テ殉難者追悼會ヲ催シ、遺族ヲ招
キ、小原知事ヲ初メ多數ノ縣官、松木縣會議長、柴崎新潟市
水産會長、小原愛國婦人會本縣支部長其他多クノ來賓アリテ
盛ナル法要營マレタリ

第三節 船体破損箇所

- 主ナルモノ左ノ如シ
- 一、船尾材及最後肋骨挫折
 - 一、外板少許ノ凹ミ、紙少許ノ緩ミ、脱落
 - 一、船首尾船員室及各甲板室内裝置大破損
 - 一、甲板室及出入口ノ扉並圍壁一部破損
 - 一、積載艇全部、屬具大部流失

- 一、機關諸ばいぶヒ割
- 一、發電機、電動機等ノ破損
- 一、汽罐ニ小漏孔ヲ生ジ保温あすべすとヲ失フ

第四節 浮揚回航

本船浮揚回航ノ義七月三日帝國海事會社ト契約シ八月二十七
日無事新潟ニ回航セリ

(一) 救助契約書

千島村上灣内ニ遭難セル新潟縣所有漁業指導船北辰丸(以下
北辰丸ト稱ス)ヲ曳揚ゲノ上新潟港ニ於テ之ガ引渡ヲ爲スノ
件ニ付新潟縣知事(以下甲ト稱ス)ト帝國海事株式會社(以下
乙ト稱ス)トノ間ニ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 乙ハ北辰丸ヲ救助シ新潟港ニ於テ甲ニ之ヲ引渡シ及
其ノ積載セル石炭、漁網其ノ他ノ荷物並錨、錨鎖其ノ他船
船附屬具ヲ甲ノ派遣セル監督員(以下單ニ監督員ト稱ス)ノ
指揮監督ニ從ヒ甲ニ之ヲ引渡スモノトス

第二條 救助費計算日數ハ救助船ノ北海道本土(函館又ハ小
樽)ヲ離レタル日ヨリ起算シ新潟港ニ到着ノ上甲ニ北辰丸
ヲ引渡シタル日ヲ以テ終ルモノトス

但シ救助船ノ船体機關又ハ乗組員ノ故障若クハ燃料等ノ救
助ニ要スル物品不足等ノ爲メ作業ヲ休止シ又ハ寄港シタル
トキハ不可抗力ニ因ル場合ヲ除ク外其ノ航海又ハ碇泊ニ要
シタル日數ハ之ヲ控除ス

若シ救助不成功ノトキハ救助船ノ小樽港、函館港又ハ北海
道本土ニ於テ監督員ノ承認スル港ニ到着シタル日ヲ以テ終

第八條

乙ハ北辰丸浮揚ノ時ヨリ新潟港ニ於テ同船引渡ヲ了
スル迄全損救助費擔保付海上保險ヲ神戸海上運送火災保險
株式會社又ハ甲ノ承認スル保險會社ト契約ヲ締結シ其保險
金ヲ八萬圓トシ其保險料ハ乙ニ於テ之ヲ支出スルモノトス
前項保險金ノ受取人ハ甲トシ保險契約ヲ締結シタルトキハ
其ノ保險証ヲ甲ニ交付シ甲ニ於テ之ヲ保有スルモノトス
甲ハ前項ノ保險証ノ交付ヲ受ケタルトキハ金參千五百圓ヲ
乙ニ支拂フモノトス

前項ノ金額ハ第五條及第六條ノ救助費並成功報酬金ノ外ト
ス

第九條 本契約ニ依リ甲ヨリ乙ニ支拂フベキ救助費及救助成
功報酬等ハ救助終了ノ翌日ヨリ一週間以内ニ支拂フモノト
ス

第十條 乙又ハ其ノ使用人ノ過失ニ因リテ生シタル北辰丸ノ
破損ハ乙之ヲ修繕スルモノトス此ノ修繕ノ爲メニ要シタル日
數ハ救助日數ニ算入セズ

第十一條 甲ハ一名若クハ二名ノ監督員ヲ派遣ス
乙ハ救助船ニ監督員ノ便乗ヲ承諾スルモノトス
乙ハ救助船ノ救助ノ爲メ出帆セントスル日時及港名ヲ出帆
一週間前ニ甲ニ通報スルモノトス
監督員ノ便乗中監督員ノ要スル食費其ノ他ノ經費ハ甲之ヲ
負擔スルモノトス

第十二條 北辰丸救助ノ爲メ乙ノ救助船ハ監督員ノ承認ヲ經
テ北辰丸ノ錨、錨鎖、石炭等ヲ使用スルコトヲ得
使用シタル石炭ノ代金ハ救助終了後一週間以内ニ乙ハ甲ニ

ルモノトス

第三條 救助ハ本年七月二十五日迄ニ之ヲ開始スルモノトス
第四條 救助ノ爲メニ要シタル石炭、水、給料、食料其ノ他一
切ノ救助經費ハ乙ノ負擔トス

第五條 甲ハ救助期間中左ノ計算ニ依リ乙ニ救助費ヲ支拂フ
モノトス

一、救助ヲ開始シタル日ヨリ三十日間ハ每一日ニ付金八百
圓

二、同上三十一日ヨリ四十日ニ至ル十日間ハ每一日ニ付金
七百圓

三、同上四十一日以降ハ每一日金六百圓前項救助費ノ最高
額ハ金參萬貳千五百圓ヲ限度トシ救助日數四十二日ヲ超
ユルトキト雖金參萬貳千五百圓ヲ支拂フモノトス

第六條 救助成功シタルトキハ甲成功報酬トシテ前條ノ救助
費ノ外ニ金壹萬圓ヲ乙ニ支拂フモノトス
但シ前條ニ依リ支拂フ救助費ト成功報酬トノ合算額ガ金參
萬貳千五百圓ヲ超過スルトキハ之ヲ超過セザル範圍迄成功
報酬ヲ減額シ其ノ合算額ヲ金參萬貳千五百圓ニ止ムルモノ
トス

前條ニ依リ支拂フ救助費ガ金參萬貳千五百圓ニ達スルトキ
ハ第一項ノ成功報酬ハ之ヲ支拂ハザルモノトス

第七條 乙ハ北辰丸ヲ救助スルコト能ハズシテ單ニ其ノ積荷
及船舶屬具ノミヲ救助シタルトキハ甲ハ第五條ノ救助費ノ
外其救助品ノ見積價格ノ百分ノ四十ヲ乙ニ支拂フモノトス
救助品ノ見積價格ハ甲乙ノ協定ニ依ルモノトス

之ヲ支拂フモノトス

錨其ノ他ノ物品ガ乙ノ使用人ノ過失ノタメ破損又ハ喪失シタルトキハ乙之ヲ修繕シ又ハ賠償スルノ責ニ任ス、賠償價格ハ甲乙ノ協定ニ依ル

第十三條 乙ノ救助船ハ北辰丸救助ノ爲メ必要ナルトキハ監督員ノ承認ヲ得テ北辰丸ノ船体ノ一部ノ構造ヲ變更スルコトヲ得

右契約ヲ證スル爲メ契約書正副貳通ヲ作製シ其ノ正本ハ甲ニ於テ副本ハ乙ニ於テ各保持スルモノトス

大正十三年七月四日

新潟縣知事 小原 新三
神戸市帝國海事株式會社
代理人 片岡 弓八

(二) 經過 概要

救助船來島丸(總噸數六六八噸公稱馬力一一〇馬力)ハ八月六日諸般ノ準備ヲ了シ午前九時三十分函館港ヲ出帆シ現場ニ急行セリ、幸ニ途中順調ナル航海ヲ續ケ十日午後五時五十分無事遭難現場ニ達セリ、先ヅ傳馬船ヲ以テ附近ノ水深底質、潮汐ノ干満等ヲ調査シ北辰丸甲板ニ散亂セル屬具及漁具等ヲ救助船ニ移載シどんきいばいらーヲ北辰丸操舵室後方ノ機關室上ニ据付ケ、排水用六吋せんとるぼんぶ二臺中一ハ左舷ぼんとてつきニ取付ケ機關室以後ノ排水ニ他ハふおくするニ据付ケ機關室ヨリ前方ノ排水ニ供シ尙船首尾ヨリ沖合ニ向ケ一噸錨各一個宛ヲ投入シ救助諸般ノ準備ヲ了スルヤ十三日排水ニ着手シ約二時間餘ニシテ全船殆ド排水、船体浮揚セシヲ以

石炭 吸入撒積共 四十噸

漁網 千把 但大部分腐蝕

揮發油 四十噸 但油ハ殆漏出

屬具 若干

(四) 修繕

本年度内ニ外板其他主要部ノ修繕ヲ了シタルヲ以テ明年度早々雜作ヲ加ヘ屬具ノ補修ヲ爲スコト、ナレリ

テ沖出ヲ試ミシモ周圍ノ水深淺キ爲メ不能トナリ干潮ニ際シ遭難當時ト反對ニ右舷ニ著シク傾斜セシカバ萬一テ慮リ急速ニ北辰丸積込ノ石炭百六七十噸ヲ投入シテ辛ウジテ之ヲ防止スルト共ニ前艙積ノ石炭ヲ救助船ニ移載シ各艙完全ニ排水シタル上滿潮ヲ待テ沖合ニ曳出シ救助船ノ舷側ニ横付シ潜水夫ハ吃水線下ノ損傷状態ヲ取調べ十五六日ハ艇ノ弛ミ箇所等ニハ發附ヲ塗付シ龜裂セル部分ニハ適宜楔ヲ打込ミ以テ浸水ヲ防止セリ

北辰丸船底ノ防水工事ヲ施シ甲板上諸口ヲ密閉セシト雖猶充分ナラズ且荒天ノ際ヲ慮リ北辰丸備付ノウシんとんぼんぶハ勿論六吋せんとるぼんぶ一臺ヲ機關室上ニ据付ケテ排水ノ用ニ供シタリ

北辰丸左舷ぼんとてつきいばいらるヨリ錨鎖ヲ出シ左舷ノソレヨリわいやりいぶヲ出シ之ヲ一括シテ救助船ヨリ出セル周四時ノわいやりいぶニ曳綱ニしやくるヲ以テ止メ曳航セリ、荒天ニ際シ曳綱緊張スルトキハ北辰丸ヨリ前記錨鎖ヲ伸バシテ之ヲ防止セリ、曳綱ノ長凡五十間位ニシテ殆ド緊張セシコトナク兩船間ハ絶エズ水中ニ没シ居タリ

北辰丸ハ八人夫十名乗組ミ排水ニ從事セリ
十七日午前十一時五十分村上灣出帆歸途ニツキ二十二日天候險惡ノ爲メ小樽ヘ避難入港シ二十五日天候恢復ヲ待テ午前九時三十分拔錨二十七日午後二時無事新潟灣ニ歸港同日午後六時船体及諸品ノ受渡ヲ完了セリ

(三) 救助セラレタルモノナル貨物

北辰丸貨物ノ救助セラレタルモノ左ノ如シ

二、沖合漁業

第一章 沖合漁場調査

七月五日ヨリ八月十六日ニ至ル間彌彦丸ヲ以テ粟生島沖合、粟生島佐渡間及能登嶽剛崎沖合ノ漁場調査ヲ行フ詳細ハ「越佐の水産」(新潟縣水産會報)第十五號ニ掲載セルヲ以テ茲ニ省ク

第二章 小型機船漁業經濟試驗

第一期

(一) 試驗船 浦濱丸肩七尺六馬力
(二) 試驗囑託 佐渡郡兩津町大字湊山本竹藏ニ本試驗ヲ囑託ス、即チ被囑託者ハ之ヲ以テ兩津ヲ根據トシ鰯鱈延繩流網漁業ヲナシ次ノ如キ漁獲アリ、囑託期間ハ四月一日ヨリ六月二十六日迄トス

(三) 漁獲日誌

月日	漁獲	種類	金額
四月一〇日	鰯 六〇尾	鰯	一四、二五〇
四月一一日	鰯 三尾	鰯	一五、八六〇
四月一四日	鰯 二二〇尾	鰯	三三、七八〇
四月一六日	鰯 二〇〇尾	鰯	二〇、〇〇〇
四月一八日	鰯 五〇尾	鰯	八、三〇〇
四月一九日	鰯 五〇尾	鰯	二八、六二〇
四月二〇日	鰯 三七〇尾	鰯	

三、沿海漁業

第一章 定置漁具材料試驗

四月下旬ヨリ七月月上旬迄七十日間佐渡郡西三川村西三川漁業組合ニ囑託シ同地々先ニ於テ大謀網ニヨリ定置漁具材料第一期試驗ヲ施行セリ詳細ハ「越佐の水産」(新潟縣水産會報)第十五號ニ掲載セルヲ以テ茲ニ省ク

第二章 漁獲物運搬試驗

(一) 趣旨 從來鷺崎兩津間ノ定期運搬船アルモ兩津發新瀉行キ汽船ニ聯絡セズ且内浦漁業組合地區ニ寄ルコト稀ニシテ當地漁獲物ハ多ク人、馬、車ニヨリ遠距離ニアリテハ甚シク時間ト經費トニ不利ヲ來スヲ以テ當漁業組合ニ於テ共同施設トシテ發動機附運搬船ヲ設置スルコト緊要ナルヲ唱フル久シキモ果シテ其經濟ガ能ク漁業組合ノ維持シ得ベキモノナルヤ否ヤ不明ナルヲ以テ本場彌彦丸ヲ以テ之ガ試驗ヲナシ之ガ經濟ヲ知ルヲ以テ目的トス

(二) 試驗船 彌彦丸十八噸四十馬力本船ガ本業務ニ對シテ過大ナルコト初ヨリ明ナルモ他ニ適當ナル試驗船ナキ故強テ之ヲ用ヒタリ

(三) 試驗囑託 佐渡郡加茂村内浦漁業組合ニ試驗ヲ囑託ス囑託期間ハ十二月初ヨリ二月末日迄トシ加茂村浦川ヨリ兩津港迄ヲ往復シ沿岸漁獲物ノ運搬ヲ行フ

(四) 結果 漁業者舊慣ト試驗擔當者ノ不慣等ニ差ラレテ全地

四、製 造

第一章 鹹利用試驗

本試驗ハ前年度ヨリノ繼續事業ニシテ本年度ニ於テハ夏期ニ増産セラル、鹹ノ利用、乾燥品ノ改良、輸向新製品ノ試験ヲナシ其ノ利用増進ヲ計ラントス

(一) 夏期鹹利用試驗

七月二十一日ヨリ八月四日迄佐渡分場ニ於テ鹽詰製造講習ノ傍櫻干及油燐品ノ試験ヲナス

製法ハ兩品共略前年度ノ方法ニ依リ特ニ處理中水ヲ使用シテ保鮮ヲ計リシ櫻干ハ日乾中ニ變敗シ、油燐品ハ肉摺ノ際ニ變質シ共ニ良品ヲ得ザリキ

(二) 薄身乾燥試驗

從來ノ櫻干製ハ永ク貯藏ナシ得ザル欠點アリ又本縣ニ於テハ既ニ鹹開干ヲ支那ニ輸出シタルコトアルモ安價ニテ經濟價ハズ現在ハ輸出杜絶シ居レリ然レドモ製法異ナレバ或ハ需要ヲ喚起スベキヲ以テ櫻干製ニ倣ヒ長期ノ貯藏ニ堪ヘ且ツ特種ノ色味ヲ有スル新品ヲ製シ内地向及輸向トシ適否ニツキ試験セントス

試驗期日 十月二十二日ヨリ十一月五日迄

製 法 三枚ニ卸シ兩肉片ヲ更ニ二枚ニ卸シ次ノ二様ノ調味ヲナシ乾上後箱ニ詰メ奄蒸シ白粉ヲ生ゼシメ錫ニ近キ香味ヲ附與セシ更ニろーらーニカケテ伸展ス

調味法 イ、薄醬油一升、白糖二十五匁、味淋五匁、水三合

ノ漁獲物ヲ集メルコト困難ナリキ且主漁獲物タル鹹柔魚ノ例ヲ微リテ薄漁ナリシ爲メ運搬漁獲物數量豫期ノ半ニ達セズ左記ノ通り運賃収入ハ機關燃料費ト略相等シク彌彦丸ヲ以テスル經濟ハ到底収支償ハザルモ之ガ爲メ漁獲物ノ運搬處理ヲ敏速ニシ魚價ヲ高上スルヲ以テ沿岸漁家ノ漸次陸上運搬ニ比シ有利ナルヲ識リ來レリ小型機船ヲ以テスルトキハ其船ノ經濟ナルベキハ勿論漁業上利スル所アルヲ確認スルヲ得タリ

記

航海日數 六十日

運搬個數 六百九十七個

但シ一個ハ石油箱又ハ約十貫入籠

漁船曳航 九十回

入 參百拾八圓參拾六錢

出 參百貳拾六圓拾八錢

機關用油代

支 參百貳拾六圓拾八錢

ノ液ニ一夜浸漬ス

ロ、母氏六度ノ鹽水中ニ四十分浸漬ス

本試驗ニ使用セル原料八百九十四尾此ノ重量百二十四貫六百匁製品十貫八百匁ニテ原料ニ對シ製品八歩留リナリ即チ一尾平均十一匁出來上リ一百匁ニ對シ九尾ヲ要ス

原料百尾處理スルニ各工程ニ要スル時間(延時間)

身卸一時間半、積込三十分、乾燥伸展其他四時間

イ、鹽 乾 品 製 造 費

品 目	數量	單 價	金 額	備 考
鹹	二高尾	〇.〇〇三	六八八	製品二貫九百匁出來上
調味料			〇.〇〇五	原料一尾參拾五
工 賃			〇.〇六三	原料百匁參拾八錢トナ
計			一七五三	

品 目	數量	單 價	金 額	備 考
鹹	六〇尾	〇.〇〇三	一八〇	製品七貫九百匁出來上
調味料			七五〇	原料一尾參拾五
工 賃			二八六〇	原料百匁參拾八錢トナ
計			五七九〇	

試 賣

味淋干ハ内地向トシテ鹽乾品ハ支那輸向トシテ左ノ通試賣調査ヲ委託ス

(イ) 味淋干品

新潟市古町通九番町 花屋食料品店
 長岡市表町二丁目 内山山藏商店
 桐生市本町五丁目 木暮彌七商店
 長野市 長野魚商株式會社
 東京市神田區新石町八番地 安藤俊吉商店
 松本市本町一丁目 太田貞三商店
 中央食品製造株式會社

口、鹽干品 神戸市榮町五丁目五十九番地 神戸海陸產物貿易同業組合
 水産局 江副技師

(イ)、味淋干ノ分ハ身薄過ギ干過ギテ良シカラズトノ批評一
 致セルガ如ク要スルニ今回ノ品ハ餘リ向カザルモノナリキ
 (ロ)、神戸海陸產物貿易同業組合石津氏ノ紹介ニ依リ同氏榮
 町上田文商店ハ布哇ヘ見本ヲ送リタルニ五百封度ノ見本註
 文ヲ受ケタリ、然ル處百斤四拾圓位ニアラサレバ商談シ難
 シトノコト到底夫ニテハ品出來兼テ其ノ儘トナレリ一
 方水産局江副技師ハ横濱支那商人ニ見セラレタルニ法外ノ
 安値ヲ以テ評シ是又談ニナラズ、東京京橋區東湊町野村利
 兵衛商店ハ江副技師ニ就キ見タリト書ヲ寄セテ曰ク該品
 ハ支那向ト稱スルヨリモ寧ろ内地向トシテ試買シタキヲ以
 テ五六貫許リ送品セヨ指値セヨト然レ見本出拂ノ後ニテ之
 ニ應ズルヲ得ザリキ

産 品	全額合計	製成品重量	生産費
蒸氣代	6.00	1.00	1.00
製成品重量	1.00	1.00	1.00
生産費	1.00	1.00	1.00

備考 一、蒸氣代ハ四〇封度乃至三〇封度ノ壓力ヲ使用スル時一時間貳拾圓
 電氣代ハ一時間拾五錢トセリ
 二、剥皮肉機ノ生産費少キハ本品ハ乾燥不充分ニテ製成品重量大ナリシ
 ニヨル
 三、人夫代ハ見込マズ

試験材料東京着迄ニ要セシ經費

品 目	數量	價格	備 考
製 品	100	70.00	各種二十貫宛四種計八十貫及八二圓 三ノ所願一圓六二錢二圓八九錢引
水 質	3	3.80	冷蔵用
備 用	3	0.30	荷造用
運 賃	3	3.60	二斗入新樽一ヶ一圓六〇錢
運 賃	3	4.10	兩津ヨリ上野驛迄
計	16	86.80	上野驛ヨリ築地魚市場迄

製品々評
 東京市田麩製造業者ノ品評ニヨレバ田麩材料トシテハ骨ノ混
 入セルハ面白カラズ骨其他ノ夾雜物ヲ篩ニテ除去スレバ田麩
 材料トシテ可ナルモノ、如シ而シテ現在東京市内ニテ味付田
 麩百匁小賣値六十錢位ナリ普通ソボロ百匁ヲ材料トシテ味付
 田麩二百匁ヲ得ル割合ナレバ原料ソボロノ價額ハ百匁六十錢
 位ト見ルヲ至當トス

第二章 鹹粉製試驗

試驗方法 佐渡兩津產鹹ヲ送リ農商務省水産局ニ依頼シ白風
 丸設備ノカノろにちえん機ニテ試製ス
 試驗期日 大正十三年一月十六日及全十七日兩日
 材料ハ次ノ四種各二十貫
 イ、皮ヲ剥ギタル肉ノミ(骨付)
 ロ、頭部及内臟ヲ除キ腹ノ黒皮ヲ去リタルモノ
 ハ、鰹、内臟、腹ノ黒皮ヲ去リタルモノ
 ニ、蒲鉾製造ノ廢棄物但シ内臟ヲ除ク

生 産	熟 煮	料 原	成 績
電氣使用時間 電氣使用時間 電氣使用時間	電氣使用時間 電氣使用時間 電氣使用時間	電氣使用時間 電氣使用時間 電氣使用時間	電氣使用時間 電氣使用時間 電氣使用時間
電氣使用時間 電氣使用時間 電氣使用時間	電氣使用時間 電氣使用時間 電氣使用時間	電氣使用時間 電氣使用時間 電氣使用時間	電氣使用時間 電氣使用時間 電氣使用時間

第二章 鹹罐詰製造試驗

右ノ價額ヲ標準トスレバ原料鹹ノ價額一貫六十錢以下ナラザ
 レバ引合ノ見込ナシ

製 品 種 類	及 重 量 變 化 其 他 表
水 質	1.00
立 漬	1.00
撒 漬	1.00
鹽 漬	1.00
鹽 干	1.00

試驗期日十一月二日ヨリ十一月五日迄
 製 法
 水 質 皮ヲ剥ギタル肉ヲ丸切トナシ母氏四度ノ鹽水中ニテ
 約十分間煮シ熟放冷後肉詰シ脱氣沸湯中三十分殺菌五封度
 一時間加熱ス
 立 漬 前記ノ如ク丸切セル肉ヲ母氏六度ノ鹽水ニ四十分浸
 漬シ充分水切セルモノヲ肉詰シ前法ト同シ加熱ヲナス
 撒 漬 前法ノ如ク丸切セル肉ヲ重量ノ一割ノ施鹽ニテ一
 時間漬ケ込ミ後肉詰シ前法ノ如ク加熱ス
 鹽 漬 表面ニ着色明カナラザル程度ニ乾燥シ前法ノ如ク肉
 詰加熱ス
 鹽 乾 三枚ニ卸シ一割鹽ニテ四十分鹽漬一夜水切乾燥ヲナ
 シ前法ノ如ク肉詰加熱ヲナス
 前記各製品共液ノ清澄ヲハカル爲メゼらちん一枚及二枚加ヘ

タルモノヲ試製セリ
 成 績
 各製法共肉ノ崩壊甚シク且液ノ混濁シテ商品トナシ得ズ更ニ
 肉ノ緊縮及液ノ清澄ヲ計ル必要アリ

第四章 罐詰大量製造試験

せみとろし(巻縮機)ヲ使用スル罐詰大量製造試験ヲ營業者ニ
 囑託シ製造經濟ヲ明カニシ本設備ノ普及ヲ計ラントス
 一、被囑託者 三島郡寺泊町 蓮 沼 徳 治
 一、囑託期間 大正十三年四月一日ヨリ全十四年三月三十一
 日迄一ケ年間

一、製造豫定額 魚類罐詰一千函
 一、製造高
 鱈大和養 一〇一函 鯖大和養 四七二函
 鱈混布卷 七〇函 計 六四三函

一、製造高豫定額ニ達セザリシ理由
 當地ニ原料ヲ供給シ得ベキ漁村區域ハ間瀬、石地間及佐渡
 沿岸ノ一部ニシテ此ノ範圍ノ漁況ヲ見ルニ鱈ハ前年ニ比シ
 漁獲ハ六割減値段ハ二割高ナリキ又鯖ハ總漁獲高ニ於テハ
 前年ト大差ナキモ例年ヨリ漁期甚シク後レ七月ニ於テ稍々
 豊漁ヲ示セルモ時既ニ暑ク新鮮ナル原料ヲ得難クシテ遂ニ
 豫定數量ヲ製造シ能ハザリキ

一、蓋付能率
 せみとろし一分間ノ巻縮數十七個、一時間ノ巻縮數約壹
 千個ナリ從來ノ半田式ニヨレバ一千個ノ蓋付ヲナスニハ職

八十時間ヲ要スルヲ以テ即チせみとろしハ半田式ニ比シ
 約十倍ノ蓋付能率ヲ有ス

第五章 罐詰製造講習

一、講習場所及講習期間
 一、本場 大正十三年五月廿五日ヨリ六月八日迄十五日間
 二、佐渡分場 全年七月二十五日ヨリ八月四日迄十一日間
 一、講習課目
 一、講習 製造一般、罐詰製造總論及各論
 二、講習 本場 せみとろし(巻縮機)ヲ使用スル魚類果
 實ノ實罐製造
 分場 半田式ニヨル空罐製作、魚類果實ノ實罐
 製造

一、講習修了者
 一、本場
 北蒲原郡新發田町字八軒町裏 宮川孝四郎
 北魚沼郡湯ノ谷村大字津野 星 正治
 岩船郡村上町一五三一 鈴木 清
 刈羽郡枇杷島村大字枇杷島一九九新野 芳松
 中魚沼郡上野村大字上野二五 田村 俊雄
 二、分場
 佐渡郡兩津町港 中村 佐市
 佐渡郡兩津町港 北 才一
 佐渡郡加茂村椿 萩野 容次
 佐渡郡外海府村北鶴島 北村 富藏
 佐渡郡兩津町港 齊藤福太郎

五、養 殖

第一章 鮭人工孵化事業

本場創立以來ノ繼續事業ニシテ本年度ハ三面川ニ於テ五七七
 、五〇〇粒ヲ採卵シ其内五萬粒ハ佐渡郡國府川孵化場へ分與

シタルニヨリ殘餘五二七、五〇〇粒ヲ三面川孵化場ニ収容シ
 魚野川ニ於テハ二三五、四〇〇粒ヲ採卵シタルニヨリ之ヲ信
 濃川孵化場へ収容シ別ニ村上鮭產養所ノモノ同所ヨリノ依
 託ニヨリ二八五、二〇〇粒ヲ三面川孵化場ニ収容シタルニヨ
 リ本年度本場収容總卵數ハ合計一、〇九八、一〇〇粒トナレ
 リ今左ニ其成績概要ヲ掲グ

採卵場	採卵期	採卵數	採卵所	三面川		國府川		信濃川		阿賀野川	
				至	自	至	自	至	自	至	自
採卵場	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵期	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵所	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自
採卵數	三月	五七七、五〇〇	三面川	至	自	至	自	至	自	至	自

放流場	放流時	放流日	水温	正午	平均	探採	發發	眼眼	孵化	開始	終了	日數	死亡率	孵化率	放流尾數
三	四月十三日	四月十八日	七、五	四、五	七、五	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月十三日	四月十四日	二	七、八	九、三	一〇、〇
三	四月二十三日	四月二十四日	七、六	四、二	七、一	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月二十三日	四月二十四日	二	七、六	九、三	一〇、〇
三	四月二十日	四月二十五日	六、九	四、二	七、一	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月二十日	四月二十五日	五	六、九	九、三	一〇、〇
三	四月二十二日	四月二十四日	六、九	四、二	七、一	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月二十二日	四月二十四日	三	六、九	九、三	一〇、〇
三	四月二十四日	四月二十五日	六、九	四、二	七、一	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月二十四日	四月二十五日	二	六、九	九、三	一〇、〇
三	四月二十五日	四月二十六日	六、九	四、二	七、一	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月二十五日	四月二十六日	二	六、九	九、三	一〇、〇
三	四月二十六日	四月二十七日	六、九	四、二	七、一	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月二十六日	四月二十七日	二	六、九	九、三	一〇、〇
三	四月二十七日	四月二十八日	六、九	四、二	七、一	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月二十七日	四月二十八日	二	六、九	九、三	一〇、〇
三	四月二十八日	四月二十九日	六、九	四、二	七、一	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月二十八日	四月二十九日	二	六、九	九、三	一〇、〇
三	四月二十九日	四月三十日	六、九	四、二	七、一	一〇、〇	二、八	七、八	九、三	四月二十九日	四月三十日	二	六、九	九、三	一〇、〇

第二章 鮎人工孵化事業

大正七年ヨリ大正十二年ニ至ル迄信濃川支流魚野川ニ於テ本場直接之ヲ爲シ來レルモ本年度ヨリ北魚沼郡川口村川口漁業者關久松氏ニ囑託シ經費ハ同人負擔トシ本場ハ只技術上ノ監督ヲナスノミトナセリ

然ルニ本年ハ未曾有ノ不漁ニテ充分ニ親魚ヲ得ル能ハズ遂ニ豫定ノ五百萬粒ヲ得ズシテ三百萬粒ニ終レリ

左ニ採卵、發育經過及放流表ヲ掲グ

採卵	採卵數	發眼	孵化開始	孵化終了	日數	死亡率	孵化率	放流尾數
四月十一日	100,000	10,000	四月十一日	四月十二日	1	10%	90%	10,000
四月十二日	100,000	10,000	四月十二日	四月十三日	1	10%	90%	10,000
四月十三日	100,000	10,000	四月十三日	四月十四日	1	10%	90%	10,000
四月十四日	100,000	10,000	四月十四日	四月十五日	1	10%	90%	10,000
四月十五日	100,000	10,000	四月十五日	四月十六日	1	10%	90%	10,000
四月十六日	100,000	10,000	四月十六日	四月十七日	1	10%	90%	10,000
四月十七日	100,000	10,000	四月十七日	四月十八日	1	10%	90%	10,000
四月十八日	100,000	10,000	四月十八日	四月十九日	1	10%	90%	10,000
四月十九日	100,000	10,000	四月十九日	四月二十日	1	10%	90%	10,000
四月二十日	100,000	10,000	四月二十日	四月二十一日	1	10%	90%	10,000
四月二十一日	100,000	10,000	四月二十一日	四月二十二日	1	10%	90%	10,000
四月二十二日	100,000	10,000	四月二十二日	四月二十三日	1	10%	90%	10,000
四月二十三日	100,000	10,000	四月二十三日	四月二十四日	1	10%	90%	10,000
四月二十四日	100,000	10,000	四月二十四日	四月二十五日	1	10%	90%	10,000
四月二十五日	100,000	10,000	四月二十五日	四月二十六日	1	10%	90%	10,000
四月二十六日	100,000	10,000	四月二十六日	四月二十七日	1	10%	90%	10,000
四月二十七日	100,000	10,000	四月二十七日	四月二十八日	1	10%	90%	10,000
四月二十八日	100,000	10,000	四月二十八日	四月二十九日	1	10%	90%	10,000
四月二十九日	100,000	10,000	四月二十九日	四月三十日	1	10%	90%	10,000
四月三十日	100,000	10,000	四月三十日	五月一日	1	10%	90%	10,000
五月一日	100,000	10,000	五月一日	五月二日	1	10%	90%	10,000
五月二日	100,000	10,000	五月二日	五月三日	1	10%	90%	10,000
五月三日	100,000	10,000	五月三日	五月四日	1	10%	90%	10,000
五月四日	100,000	10,000	五月四日	五月五日	1	10%	90%	10,000
五月五日	100,000	10,000	五月五日	五月六日	1	10%	90%	10,000
五月六日	100,000	10,000	五月六日	五月七日	1	10%	90%	10,000
五月七日	100,000	10,000	五月七日	五月八日	1	10%	90%	10,000
五月八日	100,000	10,000	五月八日	五月九日	1	10%	90%	10,000
五月九日	100,000	10,000	五月九日	五月十日	1	10%	90%	10,000
五月十日	100,000	10,000	五月十日	五月十一日	1	10%	90%	10,000
五月十一日	100,000	10,000	五月十一日	五月十二日	1	10%	90%	10,000
五月十二日	100,000	10,000	五月十二日	五月十三日	1	10%	90%	10,000
五月十三日	100,000	10,000	五月十三日	五月十四日	1	10%	90%	10,000
五月十四日	100,000	10,000	五月十四日	五月十五日	1	10%	90%	10,000
五月十五日	100,000	10,000	五月十五日	五月十六日	1	10%	90%	10,000
五月十六日	100,000	10,000	五月十六日	五月十七日	1	10%	90%	10,000
五月十七日	100,000	10,000	五月十七日	五月十八日	1	10%	90%	10,000
五月十八日	100,000	10,000	五月十八日	五月十九日	1	10%	90%	10,000
五月十九日	100,000	10,000	五月十九日	五月二十日	1	10%	90%	10,000
五月二十日	100,000	10,000	五月二十日	五月二十一日	1	10%	90%	10,000
五月二十一日	100,000	10,000	五月二十一日	五月二十二日	1	10%	90%	10,000
五月二十二日	100,000	10,000	五月二十二日	五月二十三日	1	10%	90%	10,000
五月二十三日	100,000	10,000	五月二十三日	五月二十四日	1	10%	90%	10,000
五月二十四日	100,000	10,000	五月二十四日	五月二十五日	1	10%	90%	10,000
五月二十五日	100,000	10,000	五月二十五日	五月二十六日	1	10%	90%	10,000
五月二十六日	100,000	10,000	五月二十六日	五月二十七日	1	10%	90%	10,000
五月二十七日	100,000	10,000	五月二十七日	五月二十八日	1	10%	90%	10,000
五月二十八日	100,000	10,000	五月二十八日	五月二十九日	1	10%	90%	10,000
五月二十九日	100,000	10,000	五月二十九日	五月三十日	1	10%	90%	10,000
五月三十日	100,000	10,000	五月三十日	六月一日	1	10%	90%	10,000
六月一日	100,000	10,000	六月一日	六月二日	1	10%	90%	10,000
六月二日	100,000	10,000	六月二日	六月三日	1	10%	90%	10,000
六月三日	100,000	10,000	六月三日	六月四日	1	10%	90%	10,000
六月四日	100,000	10,000	六月四日	六月五日	1	10%	90%	10,000
六月五日	100,000	10,000	六月五日	六月六日	1	10%	90%	10,000
六月六日	100,000	10,000	六月六日	六月七日	1	10%	90%	10,000
六月七日	100,000	10,000	六月七日	六月八日	1	10%	90%	10,000
六月八日	100,000	10,000	六月八日	六月九日	1	10%	90%	10,000
六月九日	100,000	10,000	六月九日	六月十日	1	10%	90%	10,000
六月十日	100,000	10,000	六月十日	六月十一日	1	10%	90%	10,000
六月十一日	100,000	10,000	六月十一日	六月十二日	1	10%	90%	10,000
六月十二日	100,000	10,000	六月十二日	六月十三日	1	10%	90%	10,000
六月十三日	100,000	10,000	六月十三日	六月十四日	1	10%	90%	10,000
六月十四日	100,000	10,000	六月十四日	六月十五日	1	10%	90%	10,000
六月十五日	100,000	10,000	六月十五日	六月十六日	1	10%	90%	10,000
六月十六日	100,000	10,000	六月十六日	六月十七日	1	10%	90%	10,000
六月十七日	100,000	10,000	六月十七日	六月十八日	1	10%	90%	10,000
六月十八日	100,000	10,000	六月十八日	六月十九日	1	10%	90%	10,000
六月十九日	100,000	10,000	六月十九日	六月二十日	1	10%	90%	10,000
六月二十日	100,000	10,000	六月二十日	六月二十一日	1	10%	90%	10,000
六月二十一日	100,000	10,000	六月二十一日	六月二十二日	1	10%	90%	10,000
六月二十二日	100,000	10,000	六月二十二日	六月二十三日	1	10%	90%	10,000
六月二十三日	100,000	10,000	六月二十三日	六月二十四日	1	10%	90%	10,000
六月二十四日	100,000	10,000	六月二十四日	六月二十五日	1	10%	90%	10,000
六月二十五日	100,000	10,000	六月二十五日	六月二十六日	1	10%	90%	10,000
六月二十六日	100,000	10,000	六月二十六日	六月二十七日	1	10%	90%	10,000
六月二十七日	100,000	10,000	六月二十七日	六月二十八日	1	10%	90%	10,000
六月二十八日	100,000	10,000	六月二十八日	六月二十九日	1	10%	90%	10,000
六月二十九日	100,000	10,000	六月二十九日	六月三十日	1	10%	90%	10,000
六月三十日	100,000	10,000	六月三十日	七月一日	1	10%	90%	10,000
七月一日	100,000	10,000	七月一日	七月二日	1	10%	90%	10,000
七月二日	100,000	10,000	七月二日	七月三日	1	10%	90%	10,000
七月三日	100,000	10,000	七月三日	七月四日	1	10%	90%	10,000
七月四日	100,000	10,000	七月四日	七月五日	1	10%	90%	10,000
七月五日	100,000	10,000	七月五日	七月六日	1	10%	90%	10,000
七月六日	100,000	10,000	七月六日	七月七日	1	10%	90%	10,000
七月七日	100,000	10,000	七月七日	七月八日	1	10%	90%	10,000
七月八日	100,000	10,000	七月八日	七月九日	1	10%	90%	10,000
七月九日	100,000	10,000	七月九日	七月十日	1	10%	90%	10,000
七月十日	100,000	10,000	七月十日	七月十一日	1	10%	90%	10,000
七月十一日	100,000	10,000	七月十一日	七月十二日	1	10%	90%	10,000
七月十二日	100,000	10,000	七月十二日	七月十三日	1	10%	90%	10,000
七月十三日	100,000	10,000	七月十三日	七月十四日	1	10%	90%	10,000
七月十四日	100,000	10,000	七月十四日	七月十五日	1	10%	90%	10,000
七月十五日	100,000	10,000	七月十五日	七月十六日	1	10%	90%	10,000
七月十六日	100,000	10,000	七月十六日	七月十七日	1	10%	90%	10,000
七月十七日	100,000	10,000	七月十七日	七月十八日	1	10%	90%	10,000
七月十八日	100,000	10,000	七月十八日	七月十九日	1	10%	90%	10,000
七月十九日	100,000	10,000	七月十九日	七月二十日	1	10%	90%	10,000
七月二十日	100,000	10,000	七月二十日	七月二十一日	1	10%	90%	10,000
七月二十一日	100,000	10,000	七月二十一日	七月二十二日	1	10%	90%	10,000
七月二十二日	100,000	10,000	七月二十二日	七月二十三日	1	10%	90%	10,000
七月二十三日	100,000	10,000	七月二十三日	七月二十四日	1	10%	90%	10,000
七月二十四日	100,000	10,000	七月二十四日	七月二十五日	1	10%	90%	10,000
七月二十五日	100,000	10,000	七月二十五日	七月二十六日	1	10%	90%	10,000
七月二十六日	100,000	10,000	七月二十六日	七月二十七日	1	10%	90%	10,000
七月二十七日	100,000	10,000	七月二十七日	七月二十八日	1	10%	90%	10,000
七月二十八日	100,000	10,000	七月二十八日	七月二十九日	1	10%	90%	10,000
七月二十九日	100,000	10,000	七月二十九日	七月三十日	1	10%	90%	10,000
七月三十日	100,000	10,000	七月三十日	八月一日	1	10%	90%	10,000
八月一日	100,000							

斗九升乾燥蠶蛹四十四貫ヲ投與シ十一月十七日池替シタルニ蠶十八貫百多鯉魚三寸六分ノモノ二百一十一尾鮒七貫ヲ得タリ

三、第二十一號池

本年一月九日三才鯉八寸大ノモノ三百尾、二才鯉五寸大ノモノ二百七十五尾、一月十四日四才鯉一尺五寸大ノモノ五十一尾及色鯉一尺五寸大ノモノ十五尾ヲ放養シ餌料トシテハ乾燥蠶蛹三百九十二貫多生蠶蛹二斗四升ヲ四月下旬ヨリ十月下旬迄ニ投與シ十月三日地曳網ニテ鯉魚二十二尾此貫數六貫六百多ヲ得、又十一月十日池替ヲナシ鯉魚三百八十八尾此貫數百七十五貫九百多及雜魚(鮒其他)八貫多ヲ得タリ

四、収支計算表

養魚經濟試驗ニ於ケル本年度収支計算表左ノ如シ
一金六百六拾五圓九拾九錢六厘 支 出 總 高

金貳圓	備 品 費	金貳百六拾貳圓八拾錢六厘	餌 料 費
金拾圓九拾五錢參厘	第 十 九 號 池	金拾圓九拾五錢參厘	第 十 九 號 池
金參拾九圓八拾貳錢貳厘	第 二 十 號 池	金貳百拾貳圓參錢壹厘	第 二 十 號 池
金貳百拾貳圓參錢壹厘	第 二 十 一 號 池	金百七拾參圓七拾壹錢	種 苗 費 (見 積 高)
金拾八圓	消 耗 品 費	金拾八圓	運 搬 費
金貳圓六拾錢	人 夫 賃	金百參拾七圓八拾八錢	借 地 料
金六拾九圓			

金拾四圓七拾錢 鮒九貫八百多
金百拾參圓貳拾四錢 鮒十五貫八百三十多

五、親鯉選抜

右養成鯉ノ内ヨリ優良ナル親鯉雌百四十六尾雄百五十四尾ヲ選出シ本場ニ雌十二尾雄三十尾ヲ殘シ他ハ有償若クハ無償ニテ希望者ニ配付セリ

六、年度未放養魚現在表

池 番 號	魚ノ種類	魚ノ大サ	放 養 數 量
第 十 九 號 池	雌	休重平均八匁七分	十四貫多
第 二 十 號 池	雌	才	四百九十二尾
第 二 十 一 號 池	雌	才	五百二十九尾
	雄	才	十五尾

第三節 親鯉配付

右經濟試驗池ニ於テ養成セル鯉魚ノ内體姿優秀ナル三年生ノモノヲ選出シ縣内ノ希望者ニ左ノ如ク配付セリ

一、親鯉有償配付

賣渡月日	雌雄	尾數	重 量	代 金	住 所	姓 名
十一月二十八日	雌	一	三、七〇〇	三、〇〇〇	中野郡名香山	名香山村農
十二月三日	雌	一	三、五〇〇	一、七〇〇	三島郡大津村上	田中利八郎
十二月五日	雌	一	三、〇〇〇	一、七〇〇	全	近藤 幸
十二月七日	雌	一	三、〇〇〇	三、〇〇〇	刈羽郡役所	熊倉 重成

一金四百九拾貳圓貳錢五厘

內 譯

金拾圓九拾九錢

但シ鯉魚當才ノ秋三百十四尾代

金百四拾壹圓七拾八錢五厘

內

金百貳拾參圓九拾錢

金七圓參拾八錢五厘

金拾圓五拾錢

金參百參拾九圓貳拾五錢

金參百參拾壹圓貳拾五錢

金八圓

差引金百七拾參圓九拾七錢壹厘ノ損失ヲ見タルハ事業ノ都合ニヨリ放養尾數少カリシト右養魚池ハ全部水田灌用水溜ナルニ本年ハ甚シキ旱魃ニテ池水枯渴ノ爲メ鯉魚ノ食慾最モ旺盛ナル七、八月ノ候一ヶ月餘リ絶對ニ給餌スルヲ得ザリシトニ原因スルモノナリ

猶右ハ見積金額ニシテ實際ニ於テハ鯉魚ハ親鯉トシテ有償或ハ無償ニテ當業者ニ配布シ或ハ其他ニ使用シタルニヨリ年度内ニ販賣シタル所ハ左ノ如シ

一金貳百六拾五圓貳拾七錢

內 譯

金貳拾五圓參拾貳錢

金百拾貳圓壹錢

食用鯉(三十六尾) 賣上高 八百八尾

親鯉(三十八貫四百多) 賣上高

總收入高(見積高)

第十九號池收入高(見積高)

第二十號池收入高(見積高)

第二十一號池收入高(見積高)

鯉四百二尾百八十二貫五百多代

雜魚八貫多

總 賣 上 高

食 用 鯉

親 鯉

二、鯉兒養成囑託試驗ノ爲メ中魚沼郡農會ヘ左記ノ通り無償配付セリ

交付月日	雌雄別	尾數	重 量	住 所	姓 名
十一月二十日	雌	一	三、〇〇〇	中魚沼郡	下條村
十一月二十一日	雌	一	三、〇〇〇	全	水澤村
十一月二十二日	雌	一	三、〇〇〇	全	貝野村
計	雌	三	九、〇〇〇		

第四節 鱸ノ養殖

一、産卵池(親鱸池)ノ築造

産卵ハ親鱸ヲ放養セル所ニ於テスル豫定ニテ前年秋季期養魚池第十二號及第十三號池ヲ合併シテ築造シ總面積十五坪五トナレリ、其内北側三坪六ヲ産卵場トナシ南方ヘ傾斜セシメ之ニ砂ヲ厚サ七八寸ニ敷込ミタリ、又水面積十一坪九(水深二尺アリ)ノ内ニ各關所トシテ一坪五ヲ更ニ池底ヨリ深サ三尺ニ堀下ゲ周圍ハ高サ二尺五寸ノ強鉛板ヲ張り繞ラシ

旬別	氣温	水温	備考
十月下旬	一五.八	一三.三	十月二十六日ヨリ觀測當歲千八十一
十一月上旬	一三.六	一三.九	正放養スル多カリシモ蛙ハ晴雨ニカクハラズ池邊ニアツキ本旬ニ入り日中ハ池邊ニアルモ夜間ハ見エズ
十一月中旬	一〇.三	一〇.三	二十一日冬開ナ施ス
十一月下旬	一〇.五	九.九	十二月六日降雪アリ、蛙日中ハ池邊ニ朝夕ハ沈ム
十二月上旬	六.九	七.七	十二月十二日吹雪、十五、十六ノ兩日數正見エズ
十二月中旬	三.七	四.七	十二月二十三日本温二度ニ降ル、二十六、七、八ノ三日數正見エズ
十二月下旬	五.三	四.八	二十九日ヨリ積雪絶エズ
大正十四年	五.三	四.七	一月二日ヨリ積雪絶エズ
一月上旬	三.〇	三.〇	
一月中旬	三.一	二.九	
一月下旬	三.三	三.〇	
二月上旬	四.三	四.〇	
二月月中旬	三.六	三.一	二月十五日池面積雪大半消ユ
二月下旬	三.〇	三.一	二月二十五日池全面結氷水温二、五
三月上旬	三.三	三.四	
三月中旬	五.〇	五.五	三月十三日池邊解雪蛙ハ三月十三日冬眠ヨリ覺メ十五日五、六、七ノ三日見エズ
三月下旬	一〇.〇	一〇.〇	本旬ノ内二十五、六、七ノ三日見エズ

第七節 鮠養殖試験

鮠ハ本縣ニハ「ハヨ」「ハエ」「アカハラ」「ウグイ」等稱セラレ天然ニ河川湖沼ニ饒産スルモ其味ハ甚美ナラズ唯秋季十一月頃ヨリ春三月頃迄稍々肥大シテ食用トナルノミナリ然ルニ春季産卵後河川ニ群游スル稚魚ヲ抄ヒ來リ之ヲ養魚池中ニ鯉魚ト

二四

共ニ養殖シ人工餌料ヲ以テ飼育スル時ハ秋季良ク二十、三十度ニ達スルノミナラズ其體軀甚ク肥大シテ脂肪アリ頗ル美味ナルノミナラズ其脂肪ハ甚ク輕クシテ世人ニ賞味セラル、所ナルヲ以テ之ヲ専門的ニ池中ニ養殖セントセバ如何ニセバ宜キヤトノ問題ヲ決センガ爲メ本試驗ヲ開始セルナリ

然ルニ之ヲ遂行スルニ要スル設備及經費絶無ナルヲ以テ本年度ニ於テハ月岡鯉兒養成所ニ於テ天然産鮠ノ親魚ヨリ人工受精ニヨリテ多數ノ種苗ヲ得可キヤ否ヤノ問題ノミニ就キ研究セリ而テ本研究ハ技師技手ニ支障アリ單ニ一事業手ニ旨ヲ傳ヘ研究セシメタルモノナルニ付キ充分ナル成績ヲ得ルニ至ラザリキ

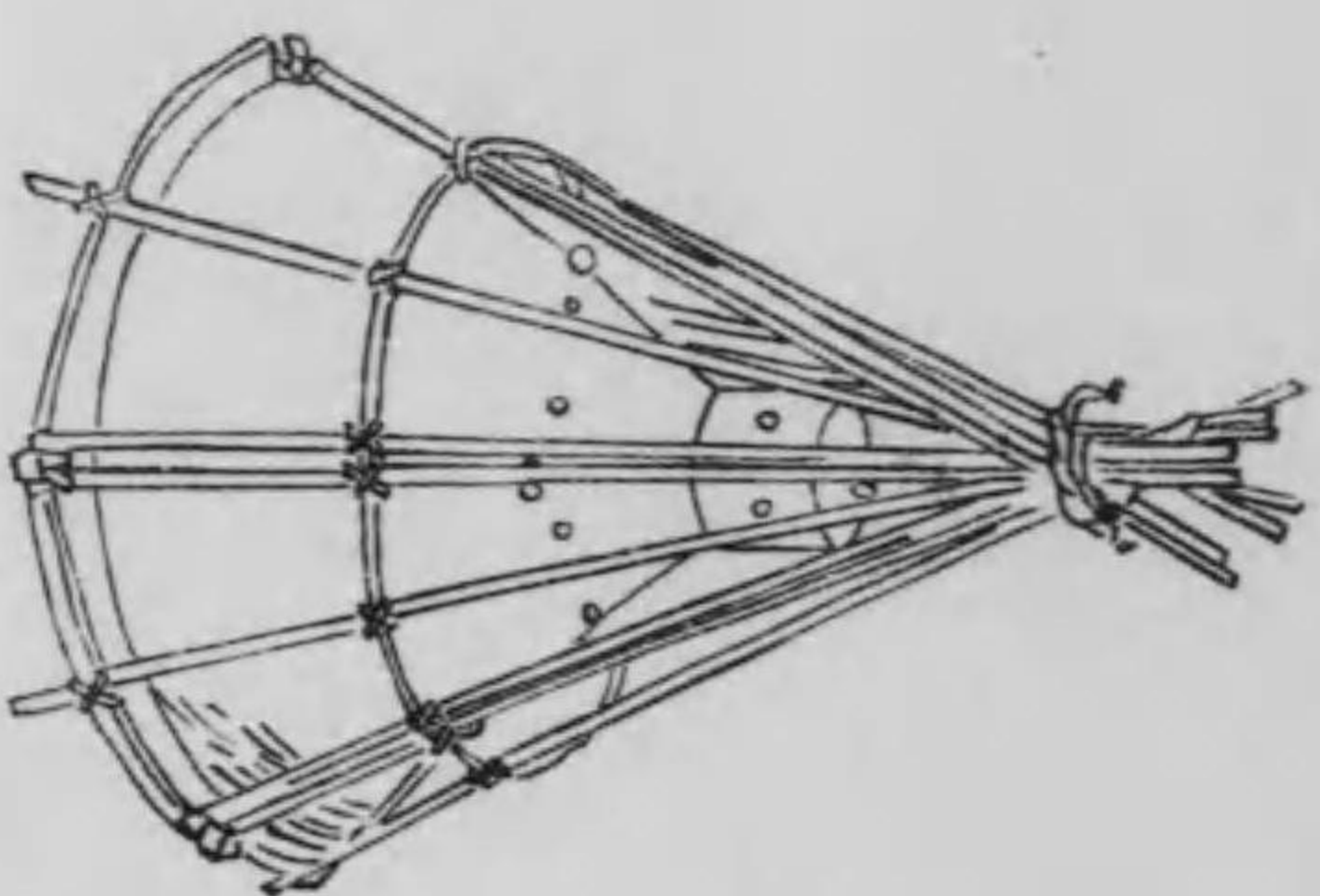
一、鮠ノ産卵期及天然産卵場

鮠ノ天然産卵期ハ本縣ニ於テハ山間部ノ積雪殆ド融解シ去リテ河川中ニ低冷ナル所謂雪白水ノ流入殆ド無キニ至リタル頃即チ四月下旬ヨリ六月上旬迄ノ間ニシテ河水温攝氏ノ十三度乃至十七八度ノ頃ナリ而テ河川ニヨリテ時間ヲ同フセザルハ全ク此ノ雪白水ノ流出如何ニアルモノ、如シ早期ニ産卵スルモノハ比較的低温ナル水温ニ産出シ晚期ニ産卵スルモノハ比較的温暖ナル水温ニ産出ス之レ晚期迄雪白水アル河川ハ雪白水ノ流出ナキニ到レバ直ニ水温激昇スルニヨルモノナル可シ

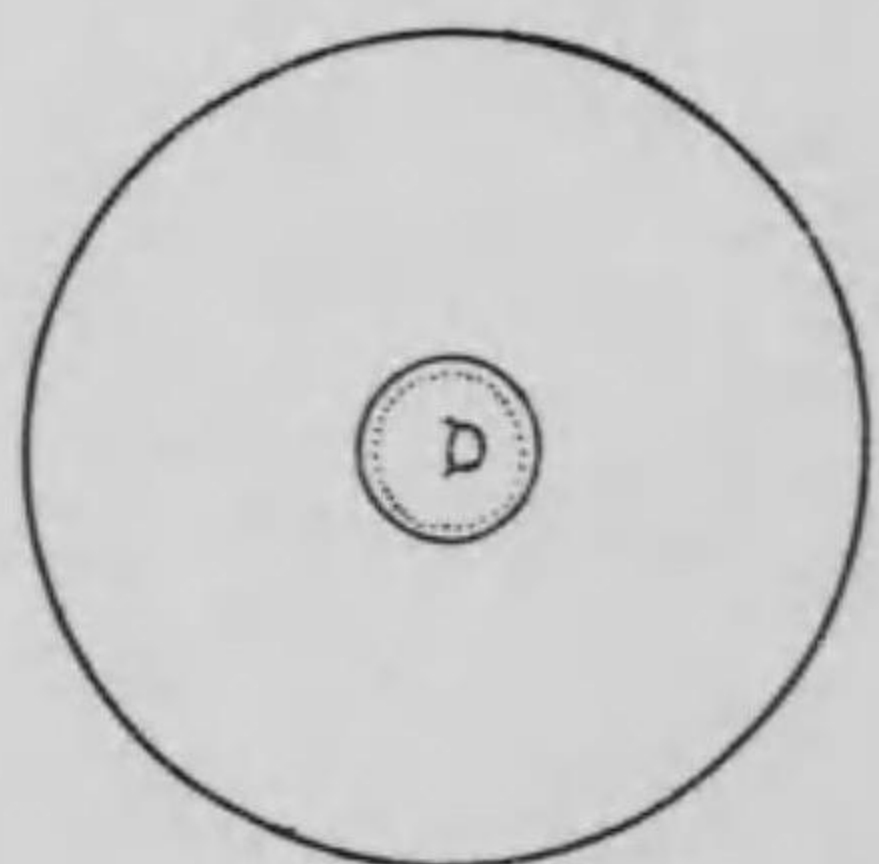
彼等ノ産卵場ハ主ニ河川ノ砂礫徑一寸前後ノ水深二、三寸ヨリ一尺前後ノ所ナルガ如シ而テ普通小河ニアリテハ淺所ニ産卵シ大河ニアリテハ稍々深キ所ニ産卵スルヲ見ル又湖水等ニテハ湖岸ニ良好ナル砂礫地アレバ之ニ産卵スルコト

食用蛙運搬器

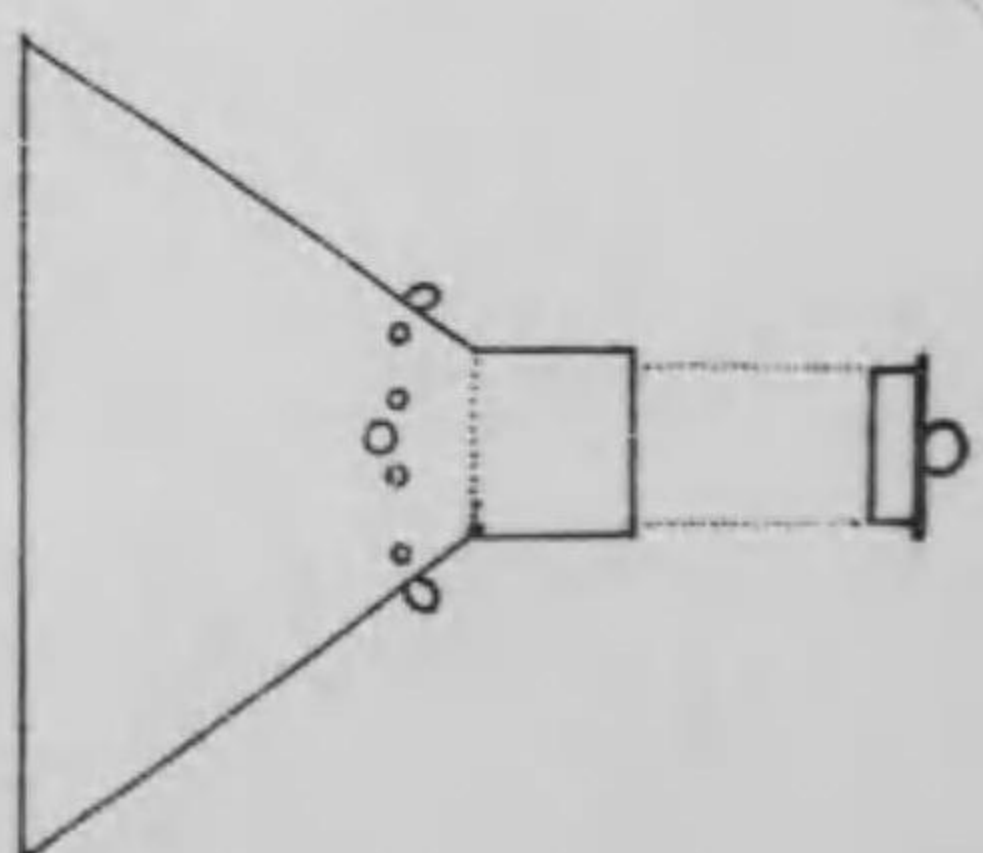
荷造全圖

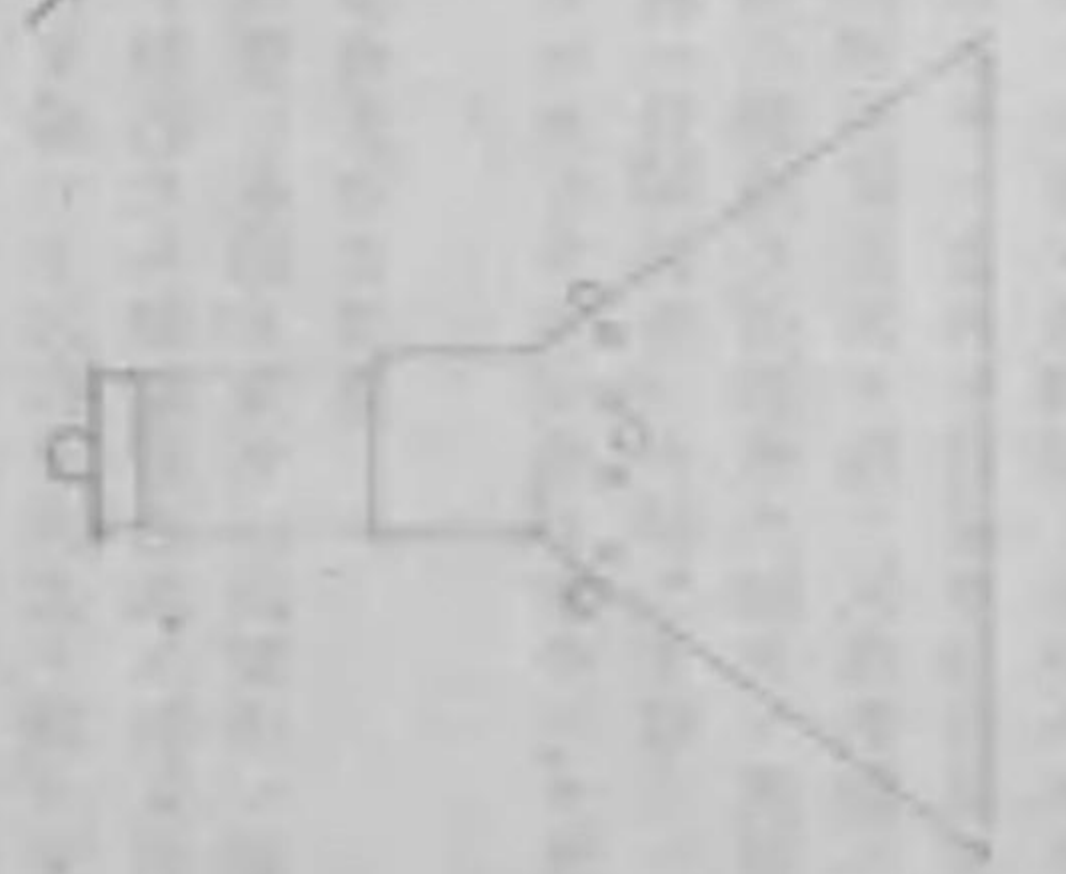
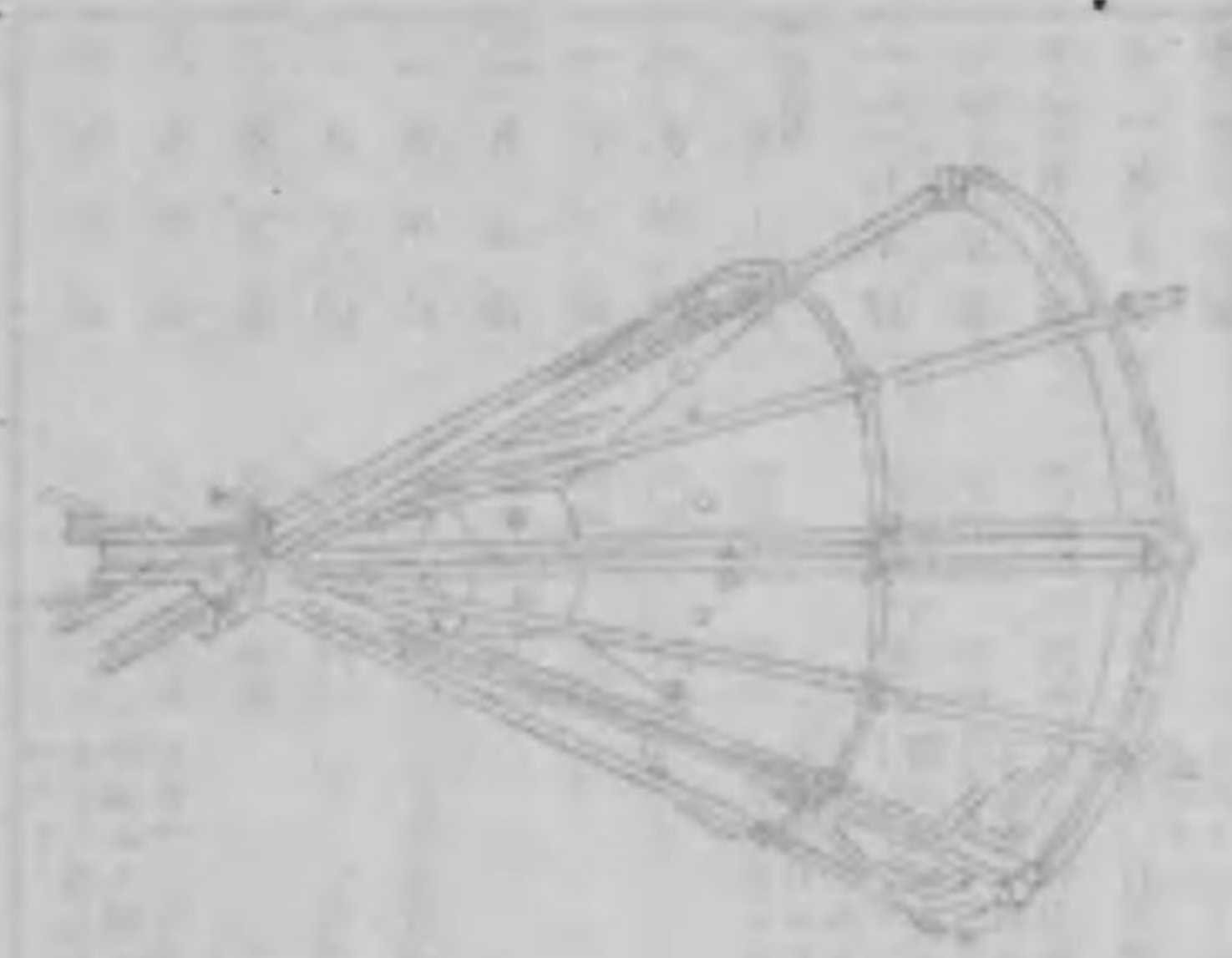


上面ヨリ見タルモノ



側面ヨリ見タルモノ





飼育器具用食

飼育器具用食

飼育器具用食

飼育器具用食

卵粒ハ小石面ニ産着セラル概シテ鮎ヨリモ淺キ所ニ産卵スル傾向アリ

二、人工採卵

人工採卵ニ使用セシ鮎ノ親魚ハ南蒲原郡本成寺村大字月岡地内ノ小溪流タル田川ノ上流約一里ニ亘ル流域ニ於テ刺網ヲ以テ捕獲シタルモノニシテ本年ハ融雪例年ヨリ遅カリシ爲メ例年ヨリ産卵期モ稍遅引セリ親魚ノ大サハ体長四、五寸ノモノ、ミナナリ

採卵表

採卵月日	人工受精ニ使用シタル親魚數	採卵粒數	採卵ニ要セシ除皮數
五月三日	二	一	一
五月六日	八	三	三
五月七日	三	四	四
五月十二日	七	三	三
五月十四日	八	七	七
五月十五日	三	一	一
五月十六日	五	三	三
計	四一	二一	二一

三、鮎卵人工孵化

孵化期中ニ於ケル本縣ノ天候ハ寒暖ノ差激シキヲ以テ室内ニ於テスルト室外ニ於テスルト何レガ優レルカヲ知ランガ爲メ同一採卵ノモノヲ室内ノ内外ニ於テ孵化シ優劣ヲ比較セリ而テ池ハ何レモ鮎人工孵化用「セメント」叩池ヲ利用シタルモノニシテ水深八寸前後流水ノ便ヨシ其ノ結果ハ室内池ノモノ成績良好ナルヲ知レリ

室内池収容卵孵化表

採卵月日	卵數	發眼開始日	孵化開始日	孵化期間(日)	平均氣温(度)	平均水温(度)	死亡數	孵化數
五月三日	一	五月三日	五月三日	一日	10.0	10.0	0	1
五月六日	三	五月六日	五月六日	一日	10.0	10.0	0	3
五月七日	四	五月七日	五月七日	一日	10.0	10.0	0	4
五月十二日	三	五月十二日	五月十二日	一日	10.0	10.0	0	3
五月十四日	七	五月十四日	五月十四日	一日	10.0	10.0	0	7
五月十五日	一	五月十五日	五月十五日	一日	10.0	10.0	0	1
五月十六日	三	五月十六日	五月十六日	一日	10.0	10.0	0	3
計	二一						0	二一

室外池収容卵孵化表

採卵月日	卵數	發眼開始日	孵化開始日	孵化期間(日)	平均氣温(度)	平均水温(度)	死亡數	孵化數
五月三日	一	五月三日	五月三日	一日	10.0	10.0	0	1
五月六日	三	五月六日	五月六日	一日	10.0	10.0	0	3
五月七日	四	五月七日	五月七日	一日	10.0	10.0	0	4
五月十二日	三	五月十二日	五月十二日	一日	10.0	10.0	0	3
五月十四日	七	五月十四日	五月十四日	一日	10.0	10.0	0	7
五月十五日	一	五月十五日	五月十五日	一日	10.0	10.0	0	1
五月十六日	三	五月十六日	五月十六日	一日	10.0	10.0	0	3
計	二一						0	二一

四、鮎兒養成

前述孵化發生セル鮎兒合計一萬五千三百尾ハ約五坪ノ「セメント」叩池ニ飼育シ平常乾燥蠶蛹粉ト大麥粉トノ混合餌料ヲ給シ時々生鱸ヲ煮熟シテ之ヲ投與シタリ魚兒ハ甚ダ餌

ニ馴レ易ク飼育容易ナルモ魚兒餘リニ密集セル爲メカ比較的成長宜シカラザリキ即チ左ノ如シ
 鱈兒成長度 (十尾平均)

孵化後飼育日數	體長	孵化後飼育日數	體長
孵化後直後	一分二厘	孵化後五十日	七分五厘
孵化後七日	二分	孵化後六十日	八分
孵化後十一日	三分	孵化後七十日	九分五厘
孵化後二十五日	四分五厘	孵化後八十日	一寸
孵化後三十日	五分	孵化後九十日	一寸三分
孵化後四十日	六分		

備考 本表ニ於テ體重ノ測定ヲ缺キタルハ衡器ナキ爲メナリ

養成期中旬別平均氣水温表

旬別	氣温	水温	旬別	氣温	水温
五月下旬	三〇.〇	一三.七	七月上旬	二九.六	二三.〇
六月上旬	三三.一	一六.〇	七月中旬	三一.〇	二七.〇
六月中旬	三三.三	一七.三	七月下旬	三一.四	二六.六
六月下旬	三六.四	二〇.三	八月上旬	三一.三	二七.四

右飼育ノモノ八月五日捕揚測定計算シタルニ大略左ノ通りノ成績ヲ得タリ

體長	一寸三分	體高	二分七厘ノモノ	四千二百十五尾
全	一寸一分	全	一分八厘ノモノ	一千五百五十三尾
全	一寸	全	一分五厘ノモノ	二千七百三十尾
全	九分	全	一分ノモノ	一千百七十尾
合計				九千六百六十八尾

即チ最初孵化發生尾數一萬五千三百尾ニ對シ九十日間ニ約三割七分ノ減耗ヲ示セリ之レ早天ノ爲メ斷水セル等ノ關係ニモ



依ルモノナル可ク要スルニ今期試験ニヨリ充分魚兒ヲ得ルハ込アルヲ知レリ而チ右魚兒ハ月間鯉兒養成所ヲ閉鎖スル關係上八月八日全部河川ニ放流セリ

第五章 蛤移殖試験

加茂湖利用ノ目的ヲ以テ前年度ヨリ蛤移殖ヲ開始セルガ前年度ハ其數量僅ニ石二斗ニ過ギザリシモ本年度ニ於テハ石八斗(二斗入五十四呎)ヲ移殖シ其放養區域モ亦廣汎ニ亘リタリ

一、移送
 十月六日午後一時原産地愛知縣室飯郡前芝發御油驛ヨリ鐵路新瀉驛ニ其ヨリ汽船ニテ當地十月十一日午後八時著此間五日間餘到着以內温度十呎平均十六度四分ニシテ同時氣温十四度四分ナリキ

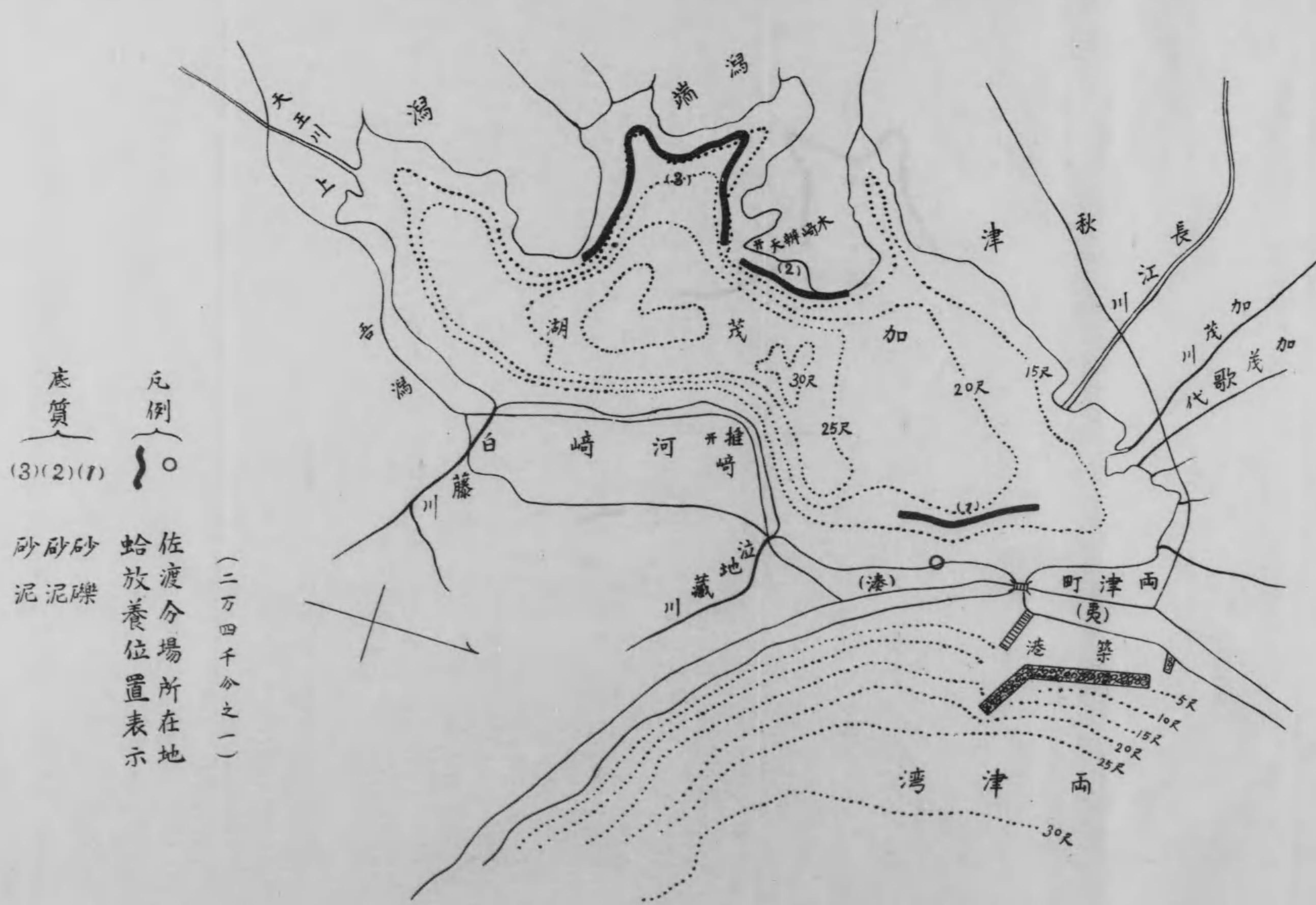
二、放養時(十月十三日)ノ氣象水温比重

番號	時刻	天候	風向	風力	氣温	水面	底部
1	午前八時	晴	北東	靜	二九.九	二七.七	二〇.〇
2	午前十時	全	全	全	三〇.三	二八.八	二〇.八
3	午後一時	全	全	全	三〇.〇	二八.八	二〇.八
4	午後二時	全	全	全	三〇.三	二八.八	二〇.八

三、移殖貝測定 (樹切一升宛)

番號	粒數	重量	夾	死	大	十	個	平均
1	四七	五.七	一	一	七.五	六.五	五.五	六.五
2	四六	五.六	一	一	七.四	六.四	五.四	六.四
3	四六	五.六	一	一	七.四	六.四	五.四	六.四
4	四七	五.七	一	一	七.五	六.五	五.五	六.五

蛤移植放養位置圖



底質 (3)(2)(1)
 砂砂砂
 泥泥礫

瓦例 }
 蛤放養位置表示

佐渡分場所所在地

(二万四千分之一)

成績ヲ得タリ

體長	一寸三分	體高	二分七厘ノモノ	四千二百十五尾
全	一寸一分	全	一分八厘ノモノ	一千五百五十三尾
全	一寸	全	一分五厘ノモノ	二千七百三十尾
全	九分	全	一分ノモノ	一千七百七十尾
合計				九千六百六十八尾

即チ最初孵化發生尾數一萬五千三百尾ニ對シ九十日間ニ約三割七分ノ減耗ヲ示セリ之レ旱天ノ爲メ斷水セル等ノ關係ニモ

三、移植員測定 (研切一升宛)

番號	粒數	重量	夾	雜	物	死	給	長	高	平均
4	四六	五七	三	一	一	一	一	七	六	六
3	四六	五七	三	一	一	一	一	七	六	六
2	四六	五七	三	一	一	一	一	七	六	六
1	四六	五七	三	一	一	一	一	七	六	六
合計	四六	五七	三	一	一	一	一	七	六	六

養蠔試驗地



平均	10	9	8	7	6	5
平均	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇
平均	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇
平均	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇
平均	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇
平均	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇
平均	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇
平均	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇
平均	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇
平均	四八〇	四九〇	四九〇	四八〇	四七〇	四六〇

四、保護方法 前年ニ倣ヘリ
 五、經過 前年放養ノモノハ稍淺部ニ移リシ傾向アリ時々網ト共ニ混漁セルモノヲ見ルニ成長良好ナリ

第六章 牡蠣養殖試験

第一節 牡蠣移殖

前年度末ニ於テ福島縣ヨリ加茂湖ニ移殖セル牡蠣養殖經過成績左ノ如シ
 一、經過成績前年度報告ノ通り大正十三年三月七日長江川尻ニ臨時放養ス

六月下旬左表ノ通り湖内ニケ所ニ分養ス

位置番號	位置	水深	底質	數量	摘	要
第一號地	長江川尻	平水一尺	砂泥軟	約一、二〇〇個	牡蠣ハ二年生ニシテ二個又ハ三個、五個總着	
第二號地	湖岸平水四尺	砂泥稍堅全	約一、二〇〇個	牡蠣ハ二年生ニシテ二個又ハ三個、五個總着		

(一)第一號地 第一號地ニ於ケルモノハ分養後時日ノ經過ニ

從ヒ砂泥中ニ殻頂ヲ埋メ殻縁ヲ僅ニ表ハシ健全ニ生活シ殻縁ノ伸長良好ニシテ肉質亦衰ヘザリキ十月下旬全部ヲ捕揚ゲテ互ニ鑑査セルモノヲ出來ル丈ケ個々ニ分チタリ此際埋没ノ爲メ窒息斃死セルモノ僅ニ五十個餘ヲ算出シタルノミ十二月捕揚販賣ノ爲新湖ニ送附セル結果左ノ如シ

取揚	送附	捕揚	數量	價額	手数料	運賃	差引	養殖
一月一日	二月一日	三月一日	四月一日	五月一日	六月一日	七月一日	八月一日	九月一日
計								

右ニテ全部取揚埋没死ノモノ三十個餘ニシテ本位置ニ於ケル成績ハ螺貝ノ被害ナク成長亦良好只地盤ノ軟砂泥ナル爲メ多少埋没死ニ至ルモノルアラテ欠點トスル外盜難ノ虞アリ十月下旬捕揚ノ際約千八百個ヲ算セシモノ十二月ニ於ケル實ニ數千三百三十五個ニシテ之レニ前後百個ノ斃死貝ヲ差引クモ尙三分ノ一約六百個ヲ失ヘリ
 分養時千二百個ノモノ十月月中旬千八百個ニ増加セルハ鑑査ノモノ分離作業ヲナシタルニ因ル

(二)第二號地 第二號地ニ於ケルモノハ第一號地ニ比シ水深アリ且ツ底質稍軟カキ傾向アリ時々ノ作業困難ニシテ螺類ノ外敵甚ダ多ク採取貝ニ就テ見ルニ吸着セルモノ、吸着ニヨル斃死貝多數ヲ認メタルモ潮汐干満ノ差ニ乏シク水色透明度ヲ欠キ止ムナク經過シ二月中旬ニ至リ採捕ニ努メタルニ成績左表ノ如シ



移植牡蛎蓄養試験并ニ加茂湖
 蛎苗附着試験位置表示圖
 (六千分之二)

取揚月日	数量	死殻	生貝	備	要
二月十五日	一五	一七〇	五	汚濁ノ爲メ作業困難	
二月十六日	三〇	二〇〇	二〇	全上	
二月十七日	四〇	三〇〇	五〇	前透明ナルヲ以テ大部ヲ採取セリ 死貝ヲ檢スルニ埋没死及螺ノ爲 メ侵食セラレタルモノ相半ス	
計	八六	六七〇	一〇〇		

分養時數量約千二百個ニシテ内二百個ハ種牡蠣附着試験瓦
 濱施設場所下ニ試験的散放ヲナシタルヲ以テ取殘數百五十
 個内外
 生貝百四個ヲ前記ノ通販賣ニ附シタルニ左ノ如シ

第一號地ノモトハ螺貝ニヨル被害ト軟泥ノタメノ埋没死ニ
 ヨリ其歩止リ放養數ノ一割ニ過ギズ成績不良ナリキ
 二、養殖地水温、比重表

第一號地 午後二時觀測		第二號地 午後二時四十分觀測	
月日	氣温 水温 比重	月日	氣温 水温 比重
二月十五日	七.七 七.六 一.〇〇	二月十六日	七.七 七.六 一.〇〇
二月十七日	七.七 七.六 一.〇〇	二月十七日	七.七 七.六 一.〇〇
二月十八日	七.七 七.六 一.〇〇	二月十八日	七.七 七.六 一.〇〇
二月十九日	七.七 七.六 一.〇〇	二月十九日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十一日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十一日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十二日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十二日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十三日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十三日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十四日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十四日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十五日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十五日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十六日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十六日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十七日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十七日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十八日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十八日	七.七 七.六 一.〇〇
二月二十九日	七.七 七.六 一.〇〇	二月二十九日	七.七 七.六 一.〇〇
二月三十日	七.七 七.六 一.〇〇	二月三十日	七.七 七.六 一.〇〇

第二節 蠣苗附着試験

前年度ヨリノ繼續試験ニシテ本年度ノ概要左ノ如シ

甲、瓦 濱

一、設備 加茂湖フゴ川尻左岸平水三尺立ニ末口二寸ノ松丸
 太ヲ二尺ノ間隔ヲ置キテ四本ヲ打込ミ之レニ平行シテ三尺
 ヲ隔テ、三列トナシ此一系列ナル杭ノ頂面各列ニ臺木丸太ヲ
 固定シ臺木ニ直角ニ厚サ五分巾一寸ノ角棧十六本ヲ併列シ
 之レニ長八寸五分、巾五寸五分ノ石灰ヲ塗抹セル長方形ニ
 シテ緩キ蒲鋒形瓦ヲ一列ニ一枚宛八列ヲ以テ七十五枚ヲ針
 金ヲ以テ固定シ隣接シテ同様ノ設備ヲナシ合計百五十枚ヲ
 水底ヨリ一尺五寸位置ニ七月十七日施設セリ

一、蠣苗附着状況 瓦面ハ日ナラズシテ浮泥ヲ薄ク蔽ヒ表裏
 共蛇貝密ニ附着シ八月中旬ニ至ルモ瓦數ノ三分ノ一ハ附着
 ヲ見ズ附着セルモノモ裏面ノミニシテ其數亦其多カラズ
 九月十五日ニ至リ精査セル附着割合左ノ如シ

10.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0
11.0	12.5	13.5	14.5	15.5	16.5	17.5	18.5	19.5	20.5
12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0
13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0
14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0
15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0
16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0
17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0
18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0	27.0
19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0	27.0	28.0
20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0	27.0	28.0	29.0
21.0	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0

附五枚ノ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
五枚	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
計數	0	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	225

附近ハ親貝不足ナルヲ以テ移殖ノモノ凡二百個ヲ試験的ニ施設場所水底ニ放養セシモ小形螺ニヨル害ヲ受ケ且ツ瓦面ニ附着ノ稚貝モ螺ノ臺木ヲ向上リテノ被害ノ爲メ附着貝ノ半數ハ侵食セラレタルヲ以テ十月五日ヲ以テ中止セリ

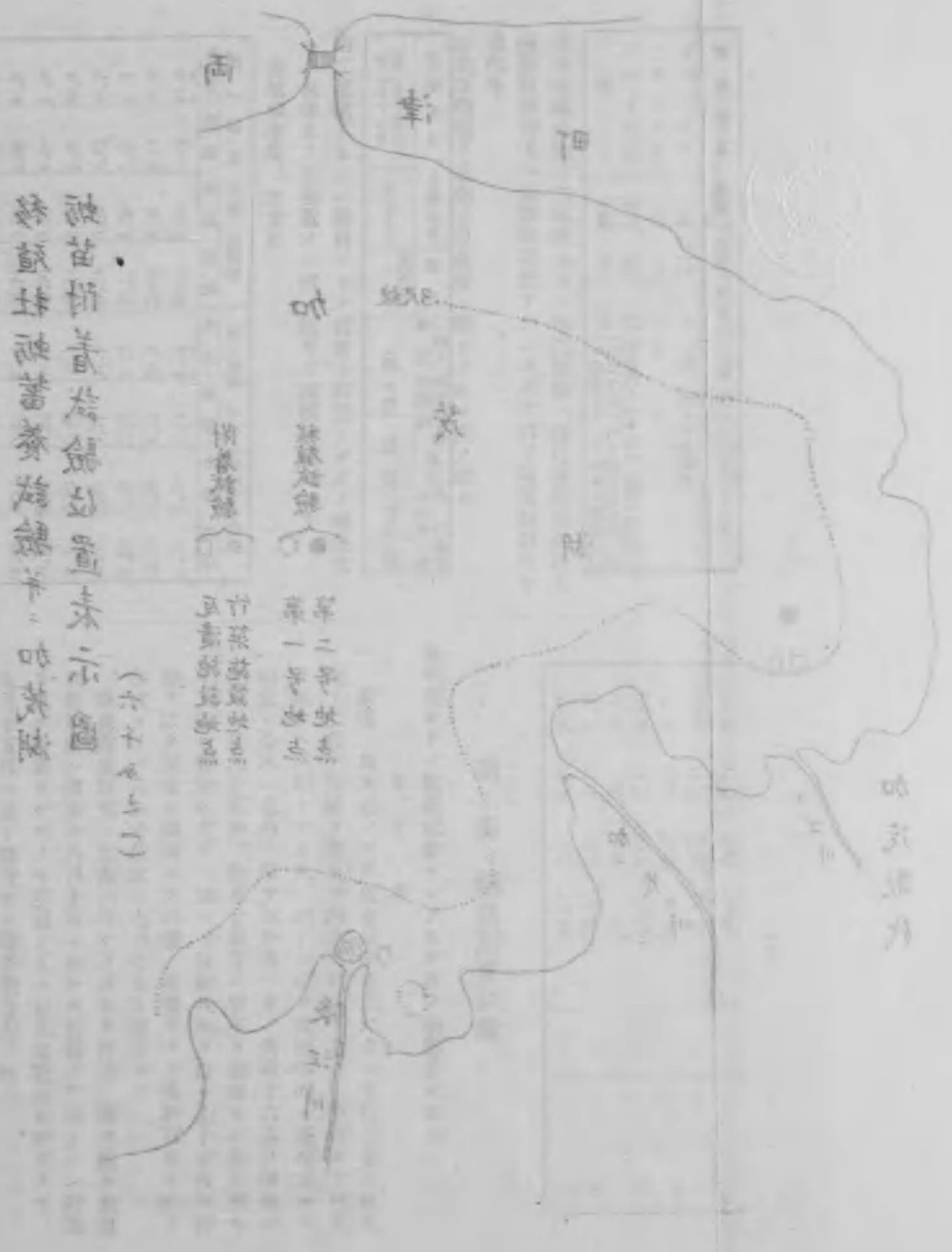
一、水温及比重測定、施設位置水温比重表ハ移殖試験第二號地ト大差ナキヲ以テ略ス

乙、竹 附

一、場所 加茂歌代地先長江川尻左岸ニ灣入スル面積二反歩餘ノ小入江ニシテ俗稱長兵衛とベト稱スルハ水淺ク中央ニ於テ三尺立入江湖岸葦根ニ附着セルモノ、轉ビがき多數ニ棲息スルモ底質腐蝕軟泥ニシテ涉歩スルヲ得ズ一部分ハ有機瓦斯ヲ發生シ水質不良ニシテ臭氣アリ爲メニ此處ニ棲息スル親貝ハ身入悪シク食用トナラザルモ種苗發生多ク仍テ附着ヲ計ルヲ目的トシテ本所ヲ撰定セリ

一、竹 七月十五日徑一寸平均長六尺切ノ眞竹五十本ヲ入江中央ニ直線ニ五寸間隔ヲ以テ一列ニ立列ベ其兩端ヨリ入江岸中央部ニ向ヒ各五十本ヲ三角形ニ建込ミタリ各竹ハ底質ノ關係上三尺ヲ地中ニ三尺ヲ水中ニアル淺キ部分ハ斜ニ挿入セリ

一、附着、狀況 竹ハ建込後數日ニシテ浮泥ニヨル薄キヨゴレヲ生ジ施設後八月十三日ニ至リ之レヲ見ルニ陽面ニ薄ク



陰面ニ密ニ多數ノ附着ヲ見ルニ至リ而カモ其成長度ハ瓦漬ニ比シ格段ノ差アリ△形底邊及等邊左方ニ附着附着良好且ツ附近ニ螺類ノ棲息ヲ見ズ外敵ニヨル被害ナシ

九月十三日精査セル附着割合左ノ如シ

底邊ノ一列

竹番號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
附着數	44	42	19	14	5	7	16	21	3	7	2	784				

等邊右ノ一列

竹番號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
附着數	3	2	1	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	267

等邊左ノ一列

竹番號	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
附着數	0	1	4	18	21	9	16	30	17	13	18	22
竹番號	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
附着數	15	28	15	27	18	16	10	20	14	28	36	19
竹番號	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
附着數	9	14	10	25	30	16	18	4	8	34	28	16
竹番號	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
附着數	16	34	20	10	10	8	3	2	6	6	4	965
竹番號	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
附着數	40	34	20	40	16	8	3	2	6	6	4	965

一、養蠟箱収入 前記竹附着ノ稚貝ハ成長甚ダ良好ニシテ建込後入ケ月ヲ經過セル大正十四年三月十三日長六尺巾三尺深五寸底及蓋ハ四分目金網張ノ養蠟箱二個ニ等分ニ収容シ長江川尻水深一尺立ニ固定セリ其數量及大サ左表ノ如シ

養蠟箱番號	收容量	收容月日	大形ノモノ	小形ノモノ	平均
第一號	1'000	大正十四年三月十三日	1'300	1'100	1'200
第二號	1'000	同上	1'100	1'300	1'200

測定ハ大小二十個宛ニツキ平均セリ
試驗地水温比重表 午後二時觀測

月日	氣温	水温	比重	月日	氣温	水温	比重
三月十三日	11.0	10.0	1.023	三月十四日	11.0	10.0	1.023
三月十四日	11.0	10.0	1.023	三月十五日	11.0	10.0	1.023
三月十五日	11.0	10.0	1.023	三月十六日	11.0	10.0	1.023
三月十六日	11.0	10.0	1.023	三月十七日	11.0	10.0	1.023
三月十七日	11.0	10.0	1.023	三月十八日	11.0	10.0	1.023
三月十八日	11.0	10.0	1.023	三月十九日	11.0	10.0	1.023
三月十九日	11.0	10.0	1.023	三月二十日	11.0	10.0	1.023
三月二十日	11.0	10.0	1.023	三月二十一日	11.0	10.0	1.023
三月二十一日	11.0	10.0	1.023	三月二十二日	11.0	10.0	1.023
三月二十二日	11.0	10.0	1.023	三月二十三日	11.0	10.0	1.023
三月二十三日	11.0	10.0	1.023	三月二十四日	11.0	10.0	1.023
三月二十四日	11.0	10.0	1.023	三月二十五日	11.0	10.0	1.023
三月二十五日	11.0	10.0	1.023	三月二十六日	11.0	10.0	1.023
三月二十六日	11.0	10.0	1.023	三月二十七日	11.0	10.0	1.023
三月二十七日	11.0	10.0	1.023	三月二十八日	11.0	10.0	1.023
三月二十八日	11.0	10.0	1.023	三月二十九日	11.0	10.0	1.023
三月二十九日	11.0	10.0	1.023	三月三十日	11.0	10.0	1.023
三月三十日	11.0	10.0	1.023	三月三十一日	11.0	10.0	1.023

第七章 北寄貝移植試驗

前年度眞野及兩津灣ニ移植放養試ミタルニ完全ニ棲息スルヲ認メ其成績良好ナルヲ以テ本前度モ引續キ移植スル事トシタルモ經費ノ都合ニヨリ兩津灣ニノミ放養セリ其概要左ノ如シ
四月二日 福島縣平驛發送五日午後八時兩津町到着翌六日自午前九時至十一時兩津町大字湊妙法寺沖合五尋底質細砂ノ地ニ放養ス
數量及大サ

購入數量	平均箱數	死亡數	放養數量	殼長	殼高	殼巾
10箱	1.3	3	27	1.5	1.2	1.0
10箱	1.3	3	27	1.5	1.2	1.0

放養時ノ氣象水温比重左ノ如シ

時刻	天候	風向	力風	氣温	水温	比重	底	部
午前九時	曇	西	疾	11.0	10.0	1.023	砂	底

六、調 査

第一章 海洋觀測

(一) 寺泊赤泊間水温比重 (每五週五ヶ所平均)

深 度	表 面		5 0		1 0 0		2 0 0		3 0 0		米	
	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差
四月	10.2	+0.5	8.9	-0.7	8.8	-0.4	7.8	-0.7	4.6	+1.2	0	0
比 重	2454	+311	2540	-1	0	1	2558	+6	2571	+17	32	32
五月	13.2	+1.2	10.3	-0.1	9.7	-0.1	8.3	-0.6	5.5	+2.5	0.2	0.2
比 重	2328	+213	2567	+28	2573	+44	2573	+22	2569	+29	24	24
六月	16.1	0	12.5	-0.5	10.7	-0.8	8.7	-0.1	5.6	+1.6	1.0	1.0
比 重	2478	+118	2568	+32	2563	+19	2560	+25	2548	+12	1.5	1.5
七月	20.5	0.1	15.6	-2.6	12.1	-2.2	8.8	-2.9	5.4	+0	0	0
比 重	2583	+185	2601	+47	2596	+37	2587	+56	2581	+0	37	37
八月	27.4	4.7	17.9	-0.8	14.7	-0.5	8.9	-3.4	5.6	+3.4	0.6	0.6
比 重	2875	+109	2603	+59	2608	+66	2594	+57	2591	+55	43	43
九月	29.2	2.1	13.9	-2.7	10.9	-0.7	5.9	-0.8	4.3	+1.2	0.6	0.6
比 重	2922	+109	2603	+59	2608	+66	2594	+57	2591	+55	43	43
十月	29.8	1.2	20.6	-1.6	15.5	-0.9	7.2	-3.1	2.9	+0.3	0.4	0.4
比 重	2918	+73	2546	+59	2555	+42	2540	+25	2545	+29	2	2
十一月	25.13	5.6	25.33	-	17.8	-2.3	7.5	-1.7	2.3	+0.2	1.3	1.3
比 重	2513	+56	2533	-	2571	+26	2558	+13	2553	+16	27	27
十二月	19.3	0.4	19.1	-0.2	15.9	-1.0	25.42	+4	25.41	+0.2	1.3	1.3
比 重	2461	+24	2494	+31	2542	+4	2543	+19	2541	+24	15	15
一月	16.0	0.1	15.9	-0.3	15.5	-0.3	8.0	-2.6	3.5	+1.4	1.3	1.3
比 重	2483	+12	2508	+24	2516	+7	2535	+2	2534	+5	1.3	1.3
二月	10.2	0.1	10.0	-0.1	9.8	-0.5	4.0	-2.2	1.5	+2.6	1.3	1.3
比 重	2491	+4	2520	+1	2516	+13	2529	+14	2524	+2.6	1.3	1.3

表中十ノ高ク一ノ低キヲ示ス

(二) 彈崎ヨリ北西五十米水温比重

(毎十混五ヶ所平均)

但し四ノ二十混迄十一月ノ三十混迄十二月ノ十混迄迄ノ平均トス

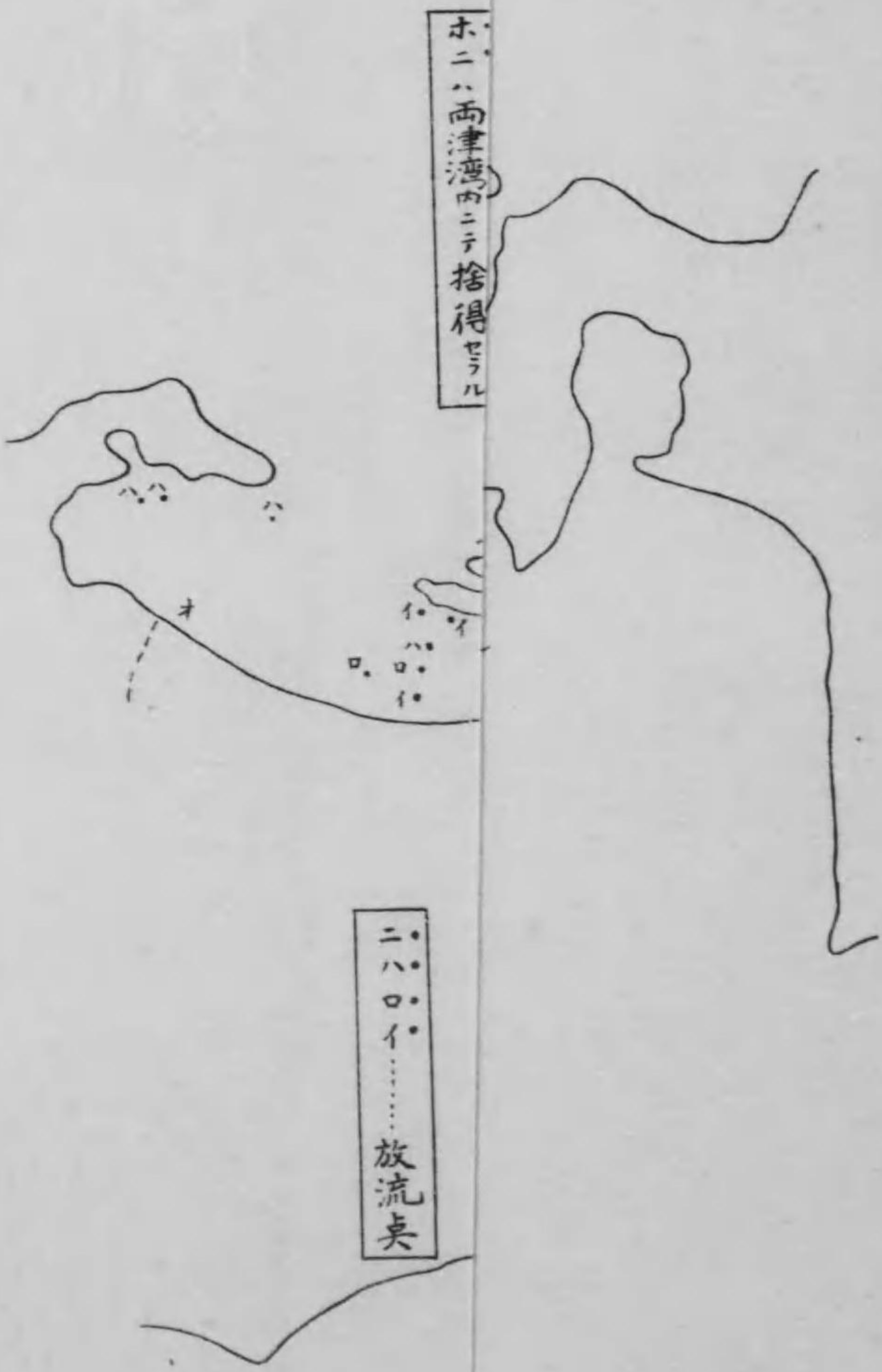
月次	表		面		5		0		米		1		0		米		2		0		米		3		0		米			
	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差	本年	前年トノ差		
四月	9.1	-	0.3	-	0.5	-	9.1	-	0.1	-	0.2	-	9.1	-	0.1	-	0.2	-	8.7	-	1.5	-	2.0	-	3.6	-	0.5	-	0.2	-
水温	2549	+	4	+	30	+	2560	+	9	+	33	+	2560	+	10	+	33	+	2562	+	12	+	34	+	2559	+	7	+	27	+
比重	11.8	+	0.8	+	0.2	+	10.5	+	1.8	+	0.9	+	9.7	+	2.8	+	1.3	+	8.9	+	4.4	+	2.9	+	6.1	+	2.9	+	1.1	+
五月	2562	+	20	+	32	+	2574	+	47	+	44	+	2580	+	54	+	48	+	2575	+	52	+	47	+	2571	+	47	+	1.1	+
水温	15.5	-	0.6	-	0.1	-	12.2	-	0.6	-	0.3	-	10.5	-	1.5	-	0.8	-	8.9	-	3.1	-	1.7	-	5.4	-	3.1	-	0.4	-
比重	2549	+	9	+	14	+	2505	+	5	+	16	+	2549	+	7	+	11	+	8.2	+	6	+	1.9	+	2548	+	2	+	15	+
六月	21.1	+	2.1	+	0.9	+	14.0	+	3.3	+	0.8	+	11.0	+	3.7	+	0.8	+	8.2	+	4.3	+	1.5	+	4.8	+	1.4	+	0.4	+
水温	2583	+	39	+	36	+	2599	+	48	+	36	+	2588	+	44	+	32	+	2587	+	37	+	37	+	2577	+	24	+	27	+
比重	27.9	+	6.1	+	3.0	+	16.4	+	6.5	+	2.0	+	10.2	+	5.7	+	0.4	+	6.2	+	3.5	+	0.6	+	4.9	+	3.5	+	1.0	+
七月	2589	+	10.1	+	5.2	+	2604	+	8.5	+	4.0	+	2606	+	9.6	+	4.5	+	2597	+	9.0	+	4.2	+	2589	+	8.0	+	4.9	+
水温	25.6	-	1.6	-	0.4	-	16.6	-	6.3	-	0	-	10.9	-	5.8	-	0.6	-	6.2	-	3.6	-	0.2	-	5.1	-	3.3	-	2.7	-
比重	2516	+	16	+	17	+	2578	+	3.5	+	3.8	+	2577	+	4.1	+	2.1	+	2562	+	3.0	+	2.3	+	2558	+	1.8	+	1.8	+
八月	22.5	+	1.2	+	0.5	+	19.9	+	9.6	+	3.8	+	14.6	+	8.9	+	3.2	+	7.4	+	5.1	+	1.1	+	3.4	+	1.8	+	1.1	+
水温	2524	+	27	+	28	+	2552	+	1.1	+	29	+	2566	+	2.1	+	3.6	+	7.0	+	1.2	+	0.1	+	2557	+	7	+	7	+
比重	18.2	-	0.4	-	1.9	-	18.0	-	3.3	-	0.1	-	14.0	-	5.4	-	0.3	-	2549	-	2.5	-	1.9	-	2.8	-	1.1	-	1.1	-
九月	2526	+	34	+	4.1	+	2534	+	1.7	+	28	+	2564	+	1.9	+	2.6	+	2549	+	1.5	+	3.5	+	2.8	+	1.9	+	1.9	+
水温	15.5	-	0.2	-	0.1	-	14.5	-	0.3	-	0.6	-	14.4	-	1.7	-	0.2	-	12.6	-	4.0	-	3.5	-	2.8	-	2.4	-	1.9	-
比重	2501	+	0	+	5	+	2517	+	10	+	7	+	2517	+	3.5	+	4	+	2518	+	28	+	1	+	2529	+	1	+	7	+

(備考)

右ニ記載ナキ月ハ欠測セルモノナリ
 平年値ハ大正六年以降ノモノ四ヶ年以上ヲ平均セルモノナリ

第二章 海流調査

第八回 海流環境報告

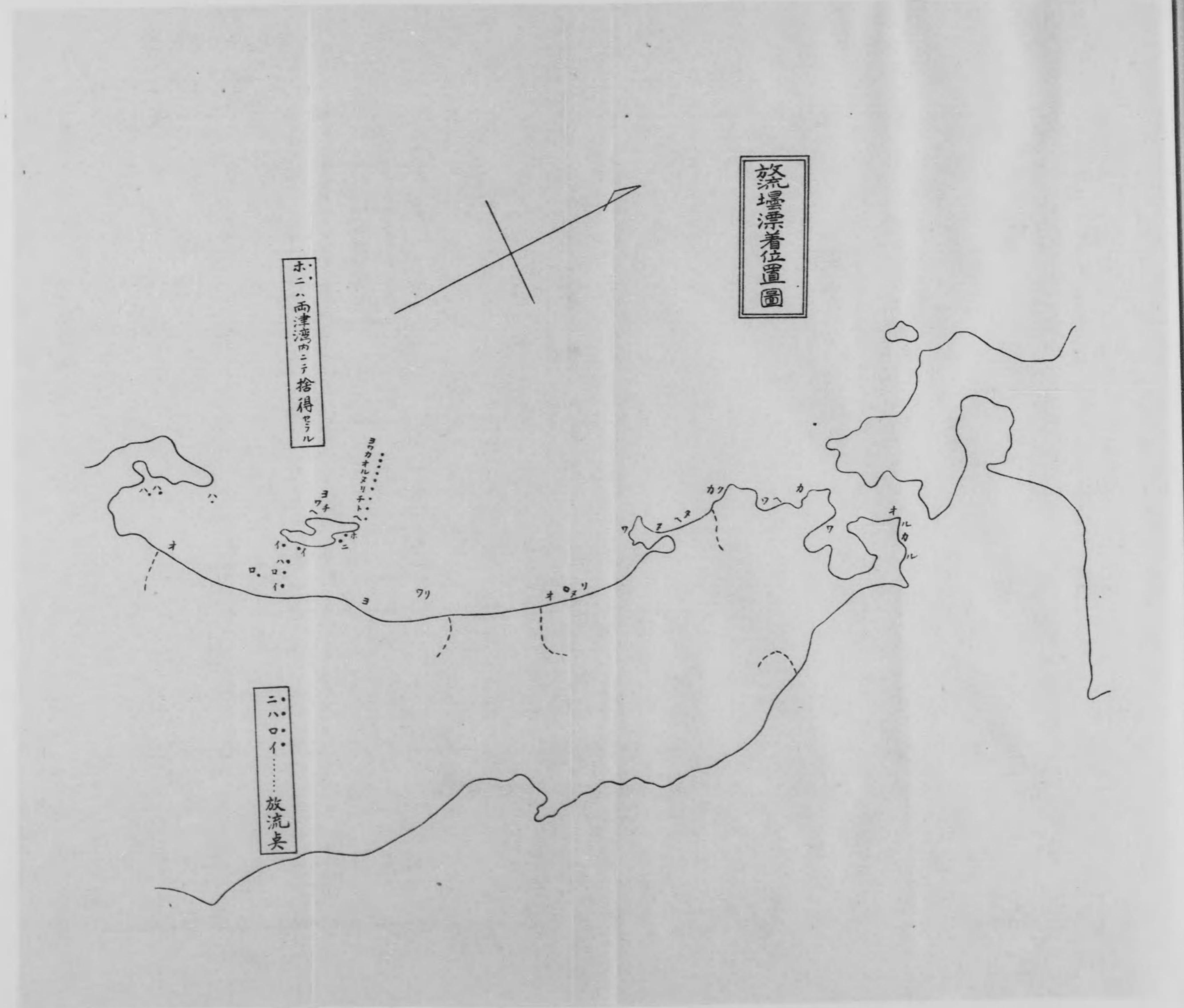


月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
比重	25.01	0	+	5	25.17	1	10	+	7	25.17	8	25.17

(備考) 右ニ記載ナキ月ハ欠測セルモノナリ
 平年値ハ大正六年以降ノモノ四ヶ年以上ヲ平均セルモノナリ

第二章 海流調査

第八回 海流場報告



流場漂着位置圖

ホニハ西津湾内ニテ捨得セラル

ニハロイ……放流矣

ヨカキルヲチト

大正十三年八月二日及三日
佐渡沿岸漂着場及場數

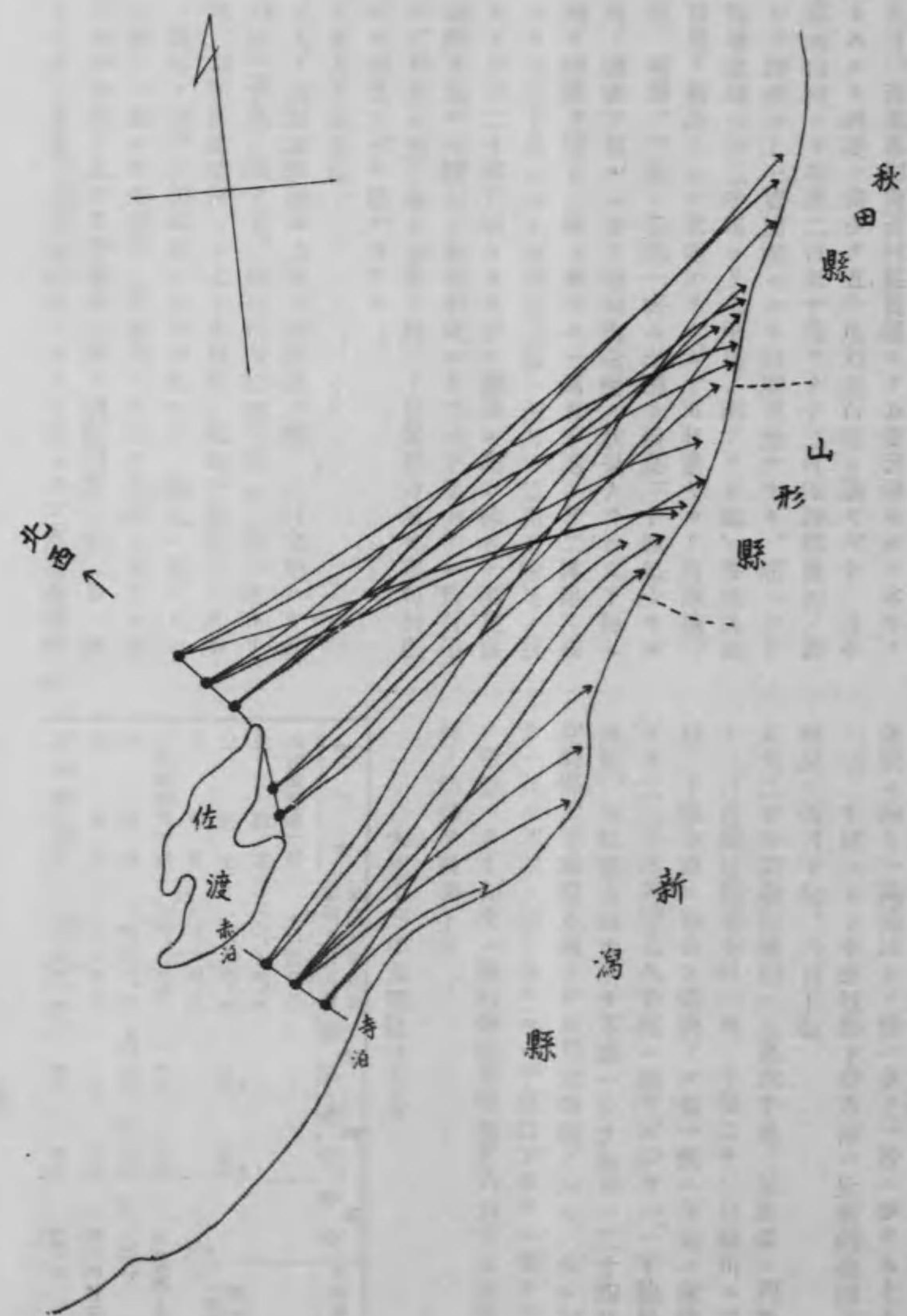


一、放流時 大正十三年八月二日及三日
 一、放流位置及場數 寺泊赤泊間每五湊三點各點へ十本宛、
 佐渡姫崎彈崎間二點各點五本宛、彈崎北西每五湊五十湊迄
 十點各點十本、合計百四十本
 二、拾得場數 三月末日迄ノ拾得報告數六十九本ニテ總場數
 百四十本約五割ニ當ル
 一、流向 八月中旬迄ニ漂着シタルモノハ多ク佐渡越後間ニ
 放流ノモノニシテ西方石川縣、富山縣方面ニ向ヘルモノ多
 ク寺泊赤泊間ノモノハ殆ンド佐渡、越後ノ兩岸ニ漂着セル
 ガ其後ノモノハ一般ニ北上シ佐渡彈崎沖ニ放流ノモノハ一

一、各縣別漂着場數

秋田縣	山本郡	南秋田郡	由利郡	利根郡	鳳凰郡	鹿島郡	水見郡	北浦原郡	岩船郡	新瀉縣	三島郡	刈羽郡	四野郡	佐渡郡	漂着場放流位置		計
															寺泊赤泊	赤泊	
																八	
																十	
																十	
																五	
																八	
																四	
																五	
																十	
																十	
																二	
																十	
																二	
																十	
																十	
																三	
																十	
																十	
																三	
																十	
																十	
																五	
																計	

二佐渡沿岸ニ到着シタル他全部北上セリ然シテ北上セルモノ
 ノハ從來ノモノニ比シ流程短ク青森縣下北半島ニ到着セル
 ヲ最モ遠シトス
 一、流速 寺泊、赤泊間ヨリ越佐兩岸ニ到着ノモノハ最モ早
 ク一日十湊乃至十八湊ノ速力ヲ示シ、西方石川、富山縣方
 面ニ漂着セルモノハ一日平均七、八湊ヲ示シタルモ其後北
 方諸縣ニ漂着セルモノハ割合ニ發見迄ニ時日ヲ要シ一般ニ
 一日五湊以下ノ速度トナレリ、最大速力ヲ示シタルハ寺泊
 沖五湊點ヨリ佐渡郡赤泊ヘ到着セルモノニテ一日十八湊餘
 ヲ流レ、最小ナリシハ彈崎北西五湊點ヨリ佐渡郡姫津ヘ到
 着セルモノニテ一日一湊ニ當ル全平均一日五湊半トナルニ



一、各縣郡別漂着場數一覽表

縣名	放流		計
	寺泊	赤泊	
新(佐渡郡)	五	一	六
秋田縣	十	一	十一
山形縣	八	一	九
新潟縣	四	一	五
計	二十七	四	三十一

第九回海流場報告
 一、時放流 大正十三年十二月三日、五日
 二、放流位置場數 寺泊赤泊間每五湊三點各十本宛、佐渡姫崎、彈崎間二點各五本宛、彈崎北西五湊點三十五本、全十湊點三十五本、全十五湊點三十本、計百四十本
 三、拾得場數 一月未迄ニ拾得報告ニ接シタルモノ八十六本ニシテ總場數百四十本ニ對シ六割強ニ當ル
 一、流向 放流後連日北西ノ強風連吹シ之ガ影響アリタルガ殆ド十二月中ニ新潟市以北山形縣、秋田縣沿岸ニ漂着シ男鹿半島以北ニ到レルモノナシ、本年八月ノ如ク西方ニ流レタルモノモナシ
 一、流速 最も速キハ彈崎北西十四湊點ヨリ秋田縣由利郡西目村出戸ニ到着シタル一日平均十六湊餘ニシテ十二月二十日迄ニ到着セル七十一本ニツキ平均ヲトルニ一日十湊ノ速力トナレリ

計	青森縣			
	北津輕郡	東津輕郡	下北郡	計
八	一	一	一	一
七	一	一	一	一
七	一	一	一	一
五	一	一	一	一
四	一	一	一	一
六	一	一	一	二
一	一	一	一	一
三	一	一	一	一
五	一	一	一	一
三	一	一	一	一
四	二	一	一	一
四	一	一	一	一
六	一	一	一	一
四	一	一	一	一
二	一	一	一	一
二	一	一	一	一
六	九	五	二	一
八	六	三	一	七
四	三	一	一	五

第三章 漁況通信

縣下重要漁村二十四名ノ通信員ヲ囑託セリ、之等通信員其他有志及網罟網漁業者ヨリ漁況ノ通信ヲ受ケタルモノ延三百二十回、之ヲ本場ニ於テ取纏メ一般ニ報告セルモノ七回ナリキ關係府縣ヨリ鱈、鯖、鰯等ノ通信ヲ受ケタルモノ延六十三回本場ヨリ夫レ等ヘ報告セルモノ十二回ナリキ
 左ニ本縣大羽鱈流網漁況及佐渡ニ於ケル鹹延繩二番柔魚釣漁況ヲ記セン

第一節 大羽鱈 漁況

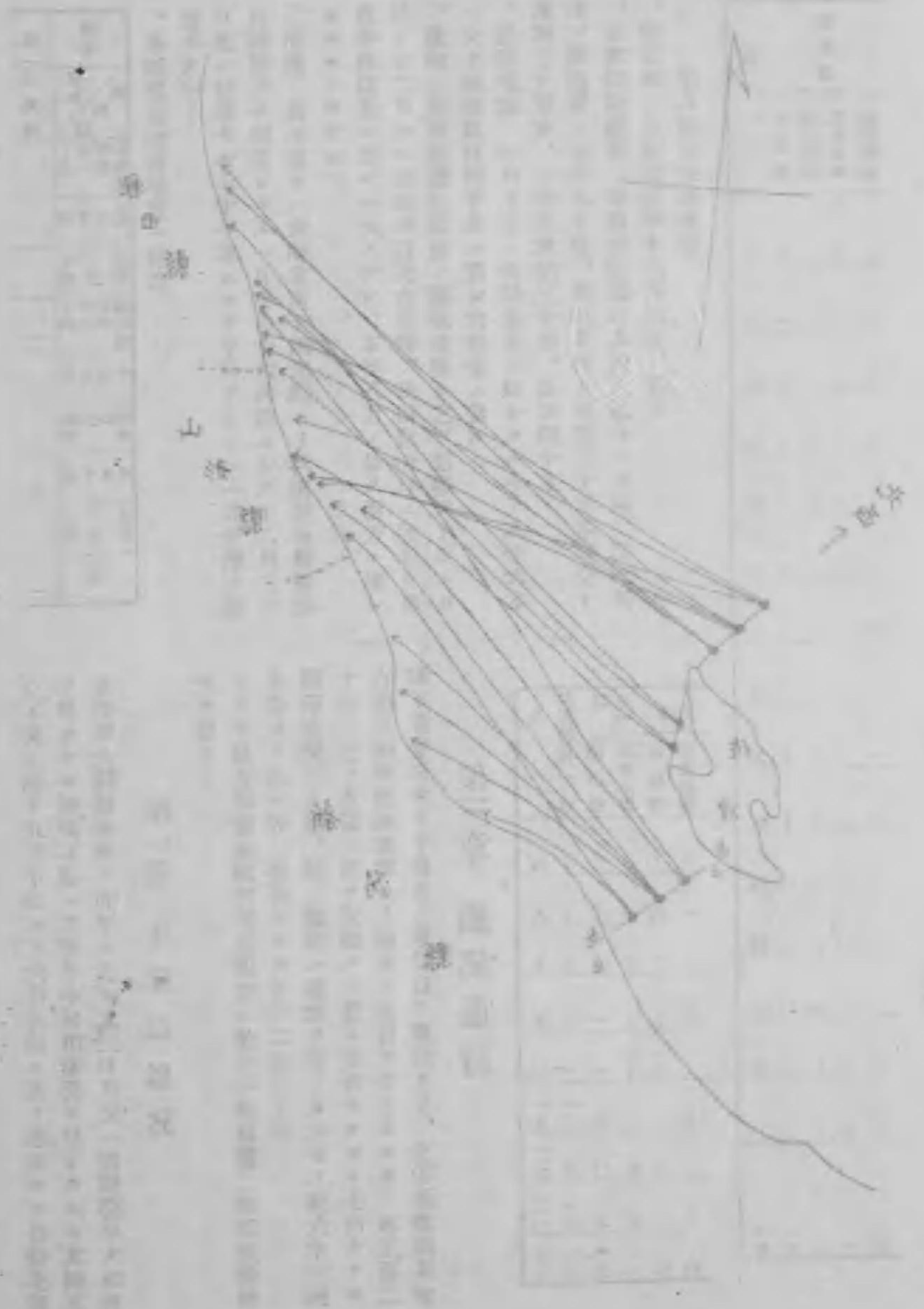
本年度大羽鱈流網ハ昨年ニ比シ二三日乃至一週間位早ク初漁ヲ見タルモ漁況不振ニテ五月中旬稍活況ヲ呈シタルモ其後又々不況ニ陥リ五月下旬ヨリ六月上旬ニ亘リ終漁セリ岩船北浦

計	山形縣		新潟縣	
	鮎川郡	鮎川郡	岩船郡	北蒲原郡
四	一	一	一	一
八	一	一	一	一
五	二	一	一	一
五	二	一	一	一
二	一	一	一	一
一	一	一	一	一
二	一	一	一	一
二	一	一	一	一
二	一	一	一	一
八	三	一	一	一

原郡松ヶ崎濱方面ノミ中漁ニシテ其他一般ニ半減乃至二三割減ノ不漁ニ終レリ左ニ初期盛期終期ニ分テ概況ヲ記セン
 初期 四月中旬下旬

四月九日、西蒲原郡角田村越前濱ヨリ五隻出漁セルヲ本年ノ初漁トスルモ漁獲ハ尙少ク五十尾乃至百尾ニ過ギズ十一日中頸城郡米山村ニテ初漁二百五十尾アリ十二日佐渡郡最初ノ出漁トシテ澤根ヨリ一隻出漁セルモ漁獲皆無ナリキ、超ヘテ十四日同地深浦ニテ二千尾ヨリ七千尾ノ漁アリシ他ハ各地共尙五六百尾ヲ最高トセル状態ナリシガ十五日過ギヨリ西頸城、中頸城、刈羽、三島ノ各郡一齊ニ出漁シ最高三千餘尾少キモ一千尾ノ漁獲ヲ見ルニ至リ中旬内全様ノ状況ナリシガ下旬ニ至リ漸ク漁獲ヲ増シ一般ニ多キハ一萬五千尾ヨリ二萬尾ニ及ビ少キモ五六千尾ニシテ西頸城方面ハ稍劣リ最高千餘尾ノ状態トナリシガ二十五日頃ヨリ又少シ薄漁ニ向ヒ稀ニ一萬尾以上ノ漁獲ヲ見ルモ概シテ最高千尾ヨリ二千尾少キハ數百尾ニ過ギズ月末ニ至リ益々薄漁ニ向ヘリ岩船郡方面モ本旬初出漁セルモ尙見ルベキ漁ナカリキ

盛期 五月上旬中旬
 五月ニ入り西頸城郡浦本方面モ稍漁獲ヲ増シ二日全地ニテ八千尾乃至三千尾ノ漁アリ、四日佐渡郡相川町ニテ四千尾ヨリ一萬尾、刈羽郡荒濱村ニテ七千尾乃至一萬五千尾兩津ニテ多キハ一萬尾ノ漁アリ浦本村ニテ五千尾ヨリ一萬尾ノ漁アリシ他尙一般ニハ概シテ最高五―八千尾ニテ未ダ豐漁ト云フニ至ラザリシガ中旬ニ入りテ各地共一齊ニ漁獲増加シ十二日ハ兩津ニテ最高二萬尾、刈羽郡中濱ニテ八千尾ヨリ三萬尾西蒲原



郡角田濱ニテ最高三萬尾翌十三日兩津町ハ一萬尾乃至三萬尾刈羽郡下宿村最高二萬三千尾下越北蒲原、岩船郡方面等各地共多キハ萬以上ノ漁獲ヲ見ルニ至リシガ十四日頃ヨリ再ビ薄漁ニ向ヒ一萬尾以上ノ漁ハ少ク一般ニ多キモ七八千尾少キハ二三千尾ニシテ中頸城郡下越方面ニ比較的豐漁ヲ見タリ
 終期 五月下旬、六月上旬
 五月二十日岩船郡臨川ニ三萬六千尾、濱新保ニ四萬五千尾二十二日西頸城郡浦本村一萬一千尾二十三日臨川ニ二萬尾等上越、下越方面ニ割合ニ豐漁アル他一般ニ下旬ハ薄漁ニシテ多キモ二三千尾乃至七八千尾ニ過ギズ少キハ一千餘尾ニシテ佐渡郡、三島郡方面至ツテ不漁ニシテ相川ハ二十四日切揚グ其刈羽郡、三島郡方面ニテ五月末切揚グルモノ多シ六月ニ入りテハ益々不漁ニ傾キ多キモ一千尾以下少キハ僅カ三百尾前後ノ状態ニテ上旬中ニ隨時各地共切揚グ六月十日西頸城郡浦本村ノ切揚ヲ最後トス

大正十三年大羽鱈漁況表

地方名	出漁		最高		最低		平均		平均魚價 例年トノ 幾因比較
	船數	初漁終漁 月日	尾數	日期	尾數	日期	尾數	日期	
四頸城郡浦本村	七四	四月九日	三〇,〇〇〇	四月九日	一,〇〇〇	四月九日	一〇,〇〇〇	一錢一厘	
全 筒石	二四	四月九日	一〇,〇〇〇	四月九日	一,〇〇〇	四月九日	一〇,〇〇〇	一錢一厘	
全 押上	二四	四月九日	一〇,〇〇〇	四月九日	一,〇〇〇	四月九日	一〇,〇〇〇	一錢一厘	
全 田伏	二四	四月九日	一〇,〇〇〇	四月九日	一,〇〇〇	四月九日	一〇,〇〇〇	一錢一厘	
中頸城郡八千浦	一四	四月九日	一〇,〇〇〇	四月九日	一,〇〇〇	四月九日	一〇,〇〇〇	一錢一厘	
全 柿崎	一四	四月九日	一〇,〇〇〇	四月九日	一,〇〇〇	四月九日	一〇,〇〇〇	一錢一厘	
全 米山	一四	四月九日	一〇,〇〇〇	四月九日	一,〇〇〇	四月九日	一〇,〇〇〇	一錢一厘	
刈羽郡大洲村	九四	四月九日	三〇,〇〇〇	四月九日	一,〇〇〇	四月九日	一〇,〇〇〇	一錢一厘	

全	全	佐	岩	北	新	全	四	全	三	全	全
深根	稻川	相川	下海府	下海府	新濱	同濱	前濱	寺泊町	出雲町	石地	高濱
4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000
4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000	4,100,000

第二節 佐渡ニ於ケル鰯ニ番柔魚漁況

月	日	漁場	最高	最低	平均
四	二	津津	1,500	500	1,000
四	三	津津	1,500	500	1,000
四	四	津津	1,500	500	1,000
四	七	津津	1,500	500	1,000
四	二九	津津	1,500	500	1,000
四	三〇	津津	1,500	500	1,000
五	二	津津	1,500	500	1,000
五	四	津津	1,500	500	1,000

月	日	漁場	最高	最低	平均
一	二	津津	1,500	500	1,000
一	三	津津	1,500	500	1,000
一	四	津津	1,500	500	1,000
一	七	津津	1,500	500	1,000
一	二一	津津	1,500	500	1,000
一	二四	津津	1,500	500	1,000
一	二九	津津	1,500	500	1,000
一	三〇	津津	1,500	500	1,000

月	日	漁場	最高	最低	平均
一	二	津津	1,500	500	1,000
一	三	津津	1,500	500	1,000
一	四	津津	1,500	500	1,000
一	七	津津	1,500	500	1,000
一	二一	津津	1,500	500	1,000
一	二四	津津	1,500	500	1,000
一	二九	津津	1,500	500	1,000
一	三〇	津津	1,500	500	1,000

二番柔魚釣

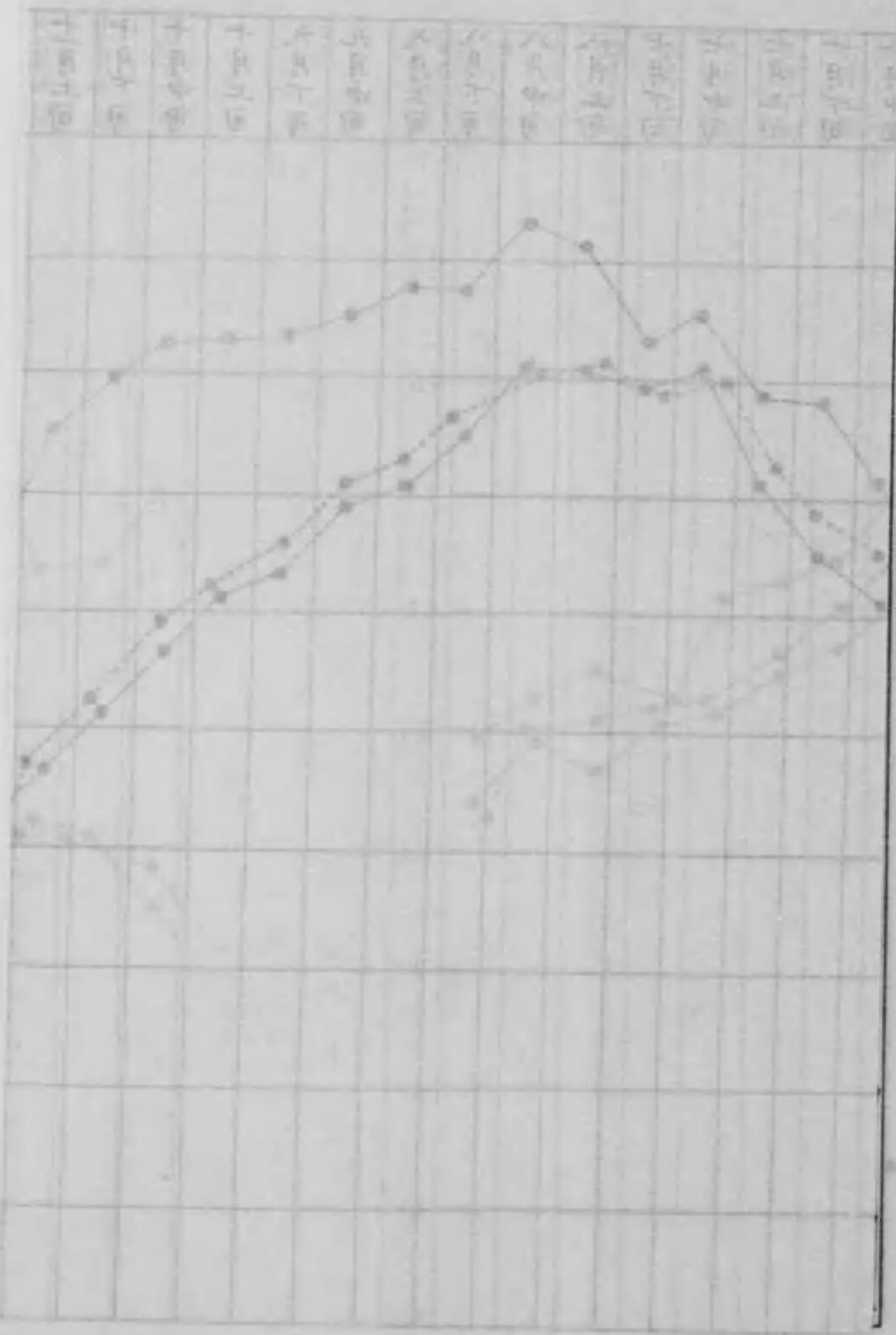
月	日	漁場	最高	最低	平均
一	二	津津	1,500	500	1,000
一	三	津津	1,500	500	1,000
一	四	津津	1,500	500	1,000
一	七	津津	1,500	500	1,000
一	二一	津津	1,500	500	1,000
一	二四	津津	1,500	500	1,000
一	二九	津津	1,500	500	1,000
一	三〇	津津	1,500	500	1,000

第四章 加茂湖調査

前年ニ引續キ毎日觀測ハ分場裏湖岸ニ於テ午後一時ニ定期觀測ハ毎月一、六ノ日ヲ標準トシテ月六回宛施行セリ、特筆スベキ事項左ノ如シ
一、貝類變遷 前年迄ハ湖岸十尺立以淺ニ於ケル部分ハ殆ンド蠍ノ繁殖棲息ヲ見タリシニ本年度春期ヨリ漸次赤貝ヲ生ズルニ至リ秋末ヨリ其ノ増殖顯著トナル面シテ蠍ハ或ハ減少セザル場所アリ或ハ著シク減少スル場所アリ
○加茂歌代地先 蠍棲息状態ニ變化ナシ罕ニ赤貝ノ稚貝ヲ見ル
○秋津地先 同前
○瀨端地先 蠍減少ノ傾アリ亦貝盛ニ繁殖シツ、アリ

月	日	漁場	最高	最低	平均
一	二	津津	1,500	500	1,000
一	三	津津	1,500	500	1,000
一	四	津津	1,500	500	1,000
一	七	津津	1,500	500	1,000
一	二一	津津	1,500	500	1,000
一	二四	津津	1,500	500	1,000
一	二九	津津	1,500	500	1,000
一	三〇	津津	1,500	500	1,000

湖沼水位日誌表



○濁止地先 網棲息、状態ニ變化ナシ
 ○吾濁地先 網減少ノ傾アリ赤貝ノ稚貝多數發生シツ、アリ
 ○河崎地先 同前
 ○兩津町地先 赤貝繁殖盛ニシテ網減少甚シ
 一、比重變化 本年度夏季ニ於ケル早魃ハ天王川ヲ始メ湖岸
 注入河川ノ濁水ヲ來シ從ツテ七月ヨリ十月ニ至ル比重ハ前
 年ニ比シ異例ニ高度ヲ示セリ
 一、結氷状態 本年度冬季間ニ於ケル結氷ハ甚ダ罕ニシテ僅
 一月中四回二月中二回ヲ數ヘシノミニシテ而モ湖岸七、八
 間乃至二十間以内ノ薄氷ナリキ
 一、越年魚類 秋末ニ於テ移動性魚類ノ多數ハ下海セルモ鰯
 ニ於テハ大部分湖ノ奥部深所ニ越年セリ

第五章 氣象觀測

創立以來繼續シテ氣象ニツキ本場及佐渡分場ニ於テ毎日觀測
 ヲ行ヒ新濁測候所ニ報告ト同時ニ參考トセリ

七、指導講習講話

第一章 小學教員水産講習

縣水産會主催ノ小學教員水産講習會ハ七月二十五日ヨリ全三
 十日迄六日間能生水産學校ニ於テ開催セラレタルニヨリ本場
 ヨリ講師トシテ技師阿部圭及技師石井文吉ヲ派遣セリ

第二章 漁村講話

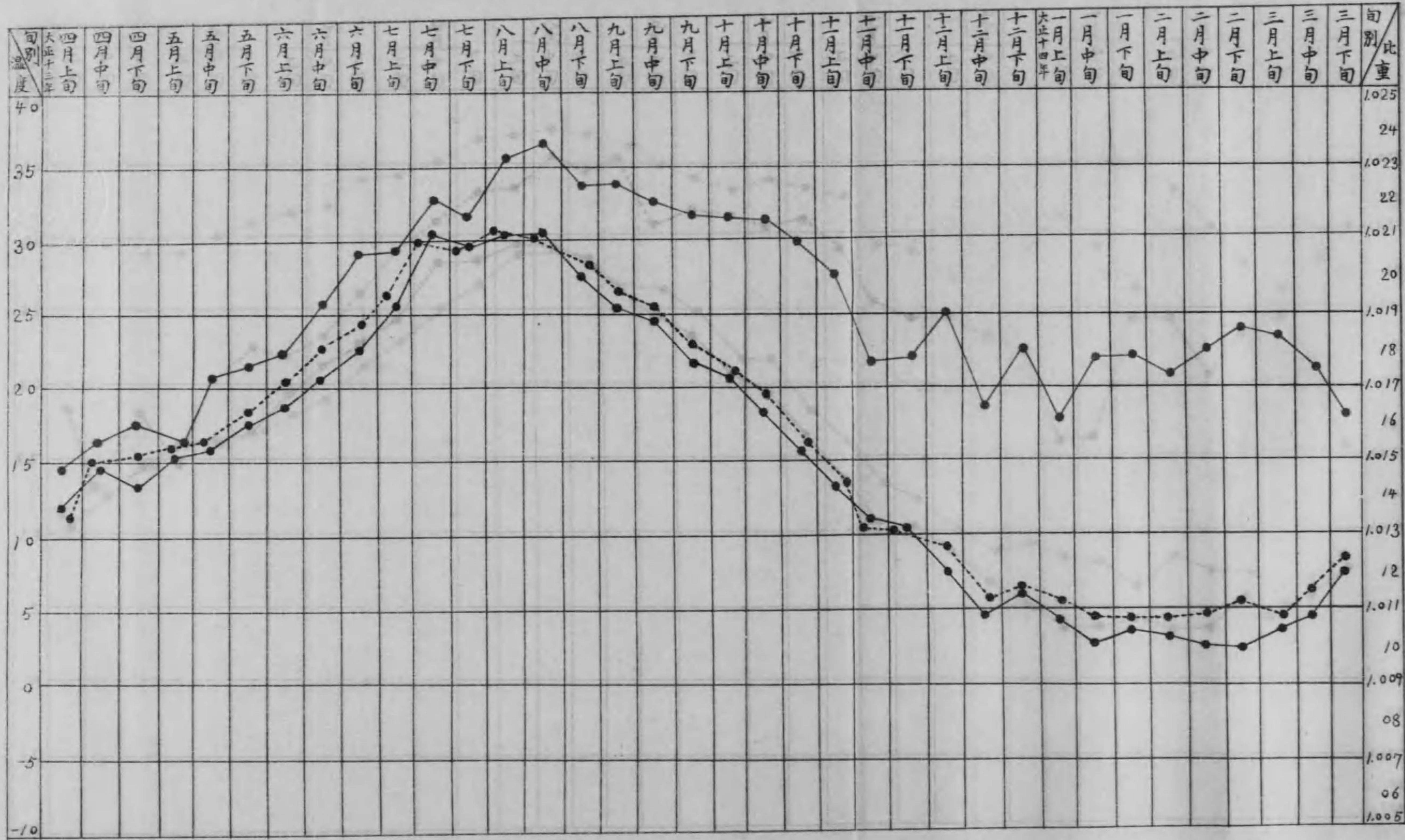
縣水産會主催ノ冬期漁閑ニ於ケル漁村講話ノ内左記ダケニ講
 師トシテ場員ヲ派遣セリ

時日	開催地	講師	講話科目	出席者
二月八日	四頭城郡筒石村	技手 友廣年	天候觀測及避航法	二百四名
二月十二日	四浦原郡同瀬村	全 人	暴風避險法	二百名
二月十五日	西浦原郡四ツ合村	技師 阿部圭	湖沼水産増殖	五十名
二月十五日	刈羽郡大洲村	技手 小野太亮	鮮魚ノ水産増殖ノ製法	二十五名

第二章 養殖講習講話

時日	開催地	講師	講習科目	出席者
四月七日	中魚沼郡下條村	技師阿部圭	養 鯉	六
四月八日	全	全	全	三
四月九日	全	全	淡水養殖	四
四月十三日	東頸城郡役所	全	淡水養殖	三

加茂湖每日觀測旬別平均之氣溫水温比重

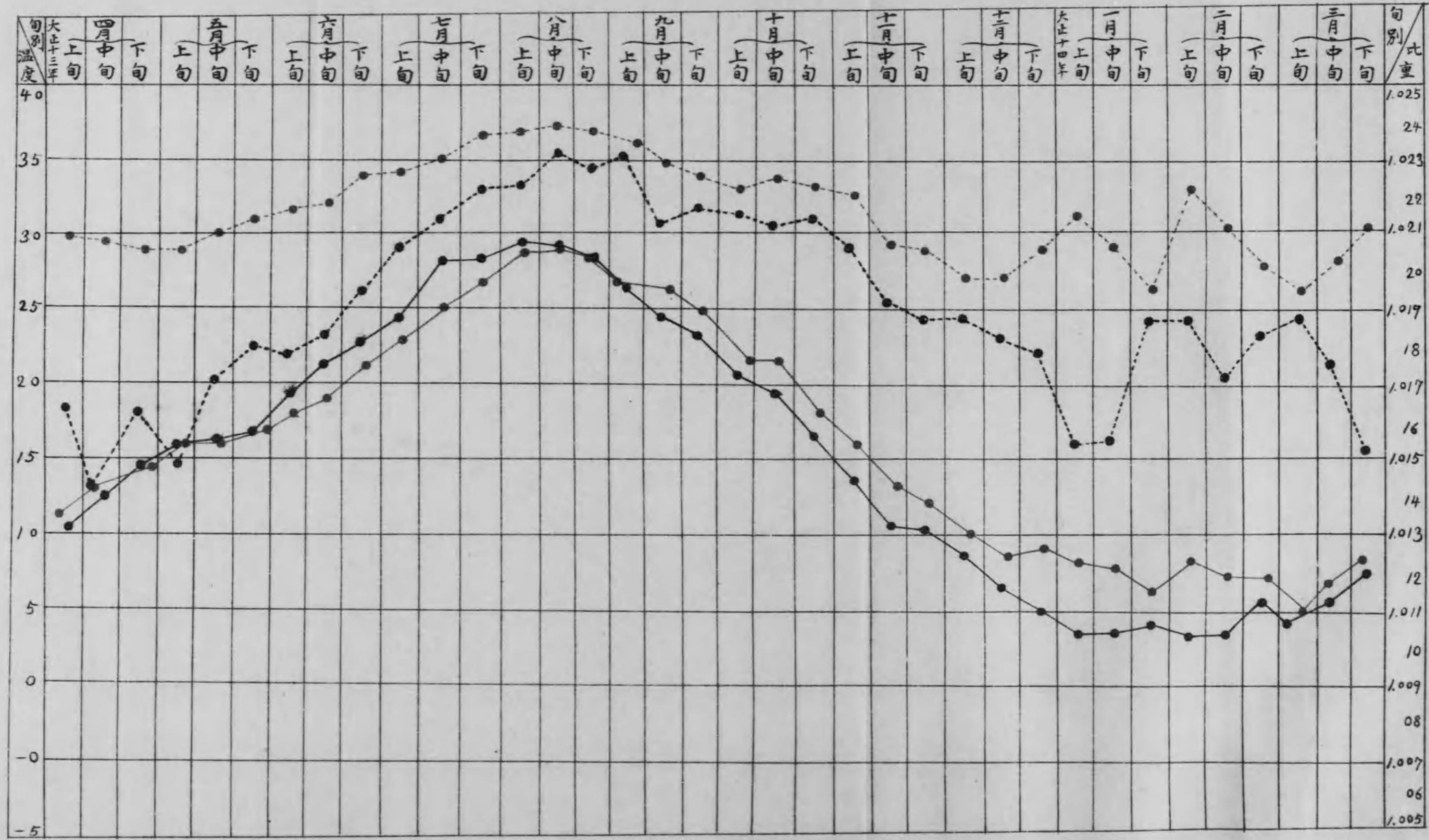


氣溫——— 水面水温----- 比重.....

時日	開館地	講師	講習科目	者受數
四月七日	中魚沼郡下條村	技師阿部圭	養蠶	三
四月八日	全	全	全	四
四月九日	全	全	全	三
四月十日	全	全	全	三

演村農
前村農
業技
業技
員員
三三
講町

加茂湖定期觀測旬別平均之水温比重



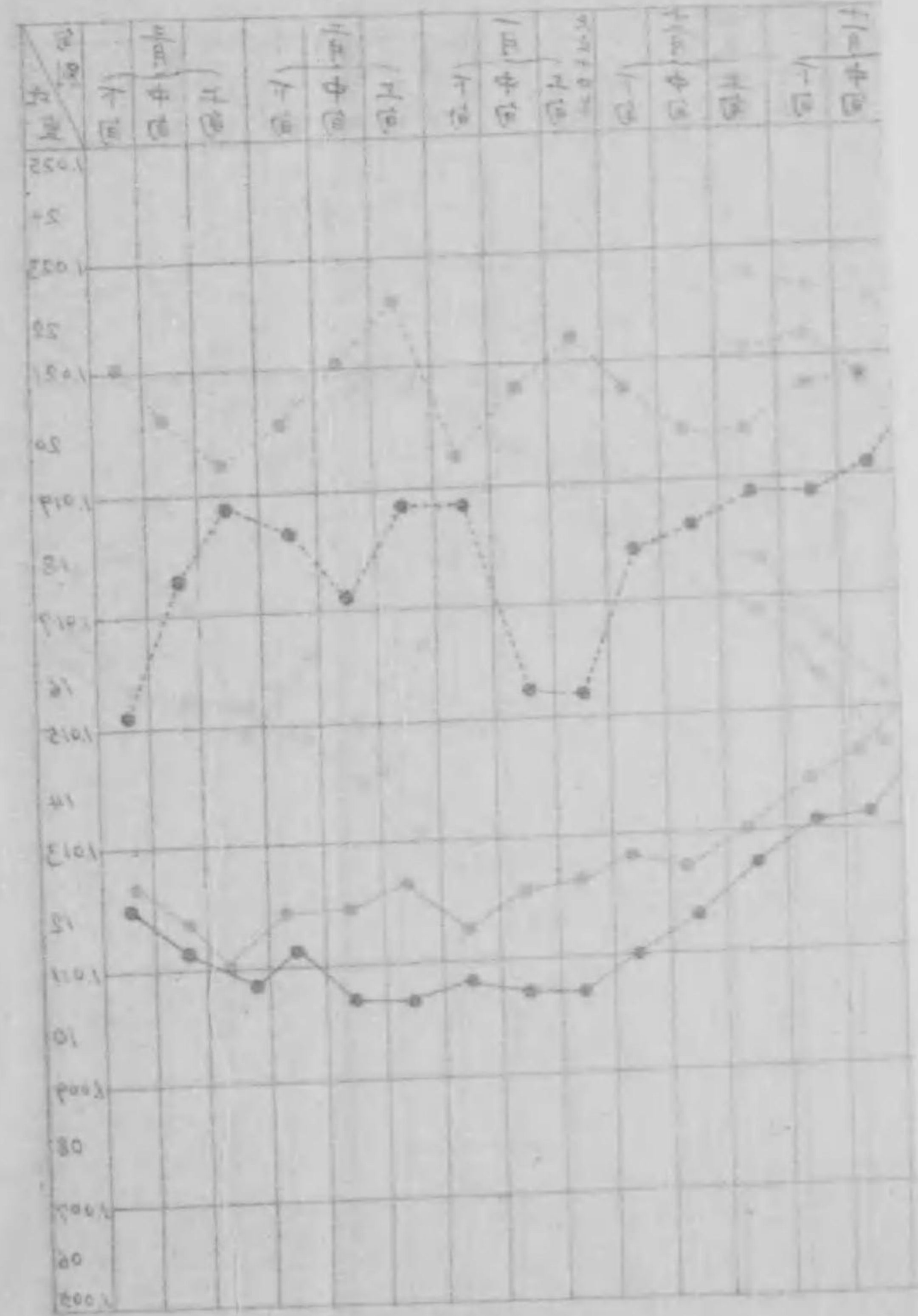
表面水温

表面比重

底部水温

底部比重

重州縣水産



重州縣水産

第四章 海圖講習

時日	開催地	講師	講習科目	受講者数	摘要
自二月十日	西浦原郡間瀬村	技手友廣	海圖、羅針儀	十名	西浦原郡水産會ノ申請ニヨル
至二月十二日	西浦原郡間瀬村	技手友廣	海圖、羅針儀	十名	西浦原郡水産會ノ申請ニヨル
六、三	東曉城郡下保倉村	技師阿部圭	養鯉	四	郡ノ申請ニヨル
六、三	東曉城郡松之山村	全	全	四	全
九、三	北魚沼郡廣瀬村	全	全	四	北魚沼郡ノ申請ニヨル
九、三	全	全	全	三	全
九、三	全	全	全	三	全
二、二	南魚沼郡東村	全	全	六	東村養鯉組合主催
二、二	全	全	全	九	全
二、二	岩船郡大川谷村	全	全	三	岩船郡水産會主催
二、二	全	全	全	三	全
二、二	全	全	全	三	全
二、二	四浦原郡四ツ合村	全	湖沼増殖	六	縣水産會主催
二、二	北浦原郡役所	全	養鯉、養鰻	三	北浦原郡水産會主催
二、二	全	全	全	三	全
二、二	全	全	全	三	全
二、二	南魚沼郡藪神村	技師阿部圭	淡水魚養殖	三	地元ノ申請ニヨル
二、二	全	全	全	三	全
二、二	板垣千比呂	全	湖沼増殖	三	郡水産會主催
二、二	技師阿部圭	全	全	三	全
二、二	全	全	全	三	全

第五章 指導

- 一、北浦原郡中浦村市島家ノ依頼ニヨリ一月十二日鯉一千五百尾ヲ琵琶湖ヨリ移殖シ福島瀧ニ放流ス
- 二、三面川鮭人工孵化場ヨリ鮭卵五萬粒ヲ佐渡郡國府川漁業

組合へ無償分與シ孵化方法指導セリ
 三、前年度本場ニ於テ佐渡郡金澤村大字中興中ノ入溜ニ公魚卵ノ移殖孵化ヲ試ミタル結果成績良好ナリシヲ以テ本年度ニ於テハ全溜管理人本間貞次ニ於テ引續キ移殖希望アリシニヨリ右周旋及孵化施設指導ヲナセリ
 其他漁撈製造ニ於テ數十件養鯉養鰻其他養魚ニ就キテ八百數十件ノ指導質疑應答ヲナセリ

八、大正十三年度經費豫算

一金八萬五千八百九拾五圓	經常費總額	金五百九拾九圓
內		金貳千七百九拾九圓
金壹萬貳千參百六拾圓	技師	賞
金千貳百九拾六圓	主事	常時修繕費
金參拾六圓	書記	臨時修繕費
金四千八拾圓	小使	與
金六百貳拾四圓	給仕	
金壹萬七千貳百九圓	給人	
金五千六拾六圓	諸手	
金四千六百六拾九圓	旅品	
金壹萬貳千八百四拾九圓	備品	
金壹萬六百參拾六圓	消耗品	
金四百九拾五圓	文具	
金七圓	通信	
金千五百拾參圓	圖書	
金百六圓	印刷	
金五百七拾參圓	被服	
金貳百七拾壹圓	賄料	
金百參拾貳圓	雜料	
金四千貳百八拾四圓	原費	
金四千貳百參拾四圓	燃料	
金參百八拾九圓	費	

金壹千五百圓

賞
常時修繕費
臨時修繕費
與

九、職員

場長	技師	新宅定一
養殖部主任	技師	阿部文吉
漁撈部主任	技師	石井孝章
北辰丸監督	技師	國府源藏
北辰丸船長(大正十三年五月十日殉難)	技師	中靜源
北辰丸機關長	技師	日比谷為造
佐渡分場主任養殖係	技師	友廣年
調查部主任漁撈係	技師	小野太亮
製造部主任	技師	利根川壽一
淡水養殖場主任	技師	深瀧勘治
庶務會計主任	主事	前田忠作
庶務會計係	主事	福士三郎
北辰丸電信手(大正十三年五月十日殉難)	主事	坂崎久雄
北辰丸製造手	主事	村山與松
彌彦丸船長	主事	中川國三郎
彌彦丸機關士	主事	石塚多七
三面川鮭人工孵化場主任	主事	山際與物市
信濃川鮭人工孵化場主任	主事	中林雅太郎
阿賀川鮭人工孵化場主任	主事	渡邊岩吉
製造係	主事	鎌田寅松
佐渡分場漁撈係	主事	久保章士
北辰丸製造手(大正十三年五月十日殉難)	主事	酒井榮二

月岡鯉兒養成所

事業手 山田源次

1421
20

大
報

本報自創刊以來，承蒙各界人士之厚愛，不勝感荷。茲因業務擴展，特遷至新址辦公，以期服務更週到。凡我舊雨新知，請至新址接洽，無任歡迎。此佈。

大正十四年五月二十五日印刷
大正十四年五月三十日發行

新潟縣水產試驗場

岩 瀬 直 藏

新潟縣長岡市表町三丁目

株式會社 北越新報社

新潟縣長岡市坂之上町二丁目

印刷所

新潟縣長岡市

山田 啓 六

内務省教育司
市川

終